

<2022年度>

第7回理事会議案書

2022年 11月 15日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2022年度 第7回理事会 議事次第

一般社団法人 全国 鐵 構 工 業 協 会

場 所： 鉄鋼会館 802号室

日 時： 2022年 11月 15日（火）
14：00～17：00

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告（定款第36条）

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 報告事項

(1) 特定技能外国人材への対応について ----- [理 22-7-報 1] (p2)

(2) 青年部との意見交換会 開催要領について ----- [理 22-7-報 2] (p3)
(別冊)

(3) 青年部(全青会)との連携活動について----- [理 22-7-報 3] (p4-)

(4) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会 ----- [理 22-7-報 4①] (p6)

② 人材育成委員会 ----- [理 22-7-報 4②] (p7)

③ 創立50周年記念事業準備委員会 ----- [理 22-7-報 4③] (p8)

④ 技術委員会 ----- [理 22-7-報 4④] (p9)

⑤ 運営委員会 ----- [理 22-7-報 4⑤] (別冊)

(5) 工場認定条件の保持状況確認結果について ----- [理 22-7-報 5] (p10)

(6) 建築鉄骨製品検査技術者講習会用試験体の譲渡について ---- [理 22-7-報 6] (p11)

(7) 建築構造用鋼材便覧の配布について ----- [理 22-7-報 7] (p12)

(8) 新型コロナ感染防止対策(ルール見直し)について ----- [理 22-7-報 8] (p13)

(9) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告 ----- [理 22-7-報 9] (p14)

(10) その他

6. その他の定例報告事項

(1) 構成員登録状況 ----- [理 22-7-他 1] (p16-)

(2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- [理 22-7-他 2] (p21)

(3) 主要会議日程 ----- [理 22-7-他 3] (p22)

(4) 支部報告 ----- [理 22-7-他 4] (p23-40)

(5) その他

7. 閉会の辞

以上

特定技能外国人 調査集計(経産省調査)

	全 国
アンケート配布社数	2,118
回答企業数	1,068
アンケート回答率	50.4%

(1) 就業者数 (単位：人)

2015年度末の従業員数		25,048
	うち、女性従業員数 (60歳未満の女性)	2,751
	うち、高齢従業員数 (60歳以上の男女)	3,359
2016年度末の従業員数		25,475
	うち、女性従業員数 (60歳未満の女性)	2,837
	うち、高齢従業員数 (60歳以上の男女)	3,441
2019年度末の従業員数		27,066
	うち、女性従業員数 (60歳未満の女性)	3,264
	うち、高齢従業員数 (60歳以上の男女)	3,844
2020年度末の従業員数		27,343
	うち、女性従業員数 (60歳未満の女性)	3,360
	うち、高齢従業員数 (60歳以上の男女)	3,905

(2) 技能実習生数受入人数 (単位：人)

受入れている企業数		325
2019年度末	1号	599
	2号 (1年目)	535
	2号 (2年目)	427
	3号 (1年目)	150
	3号 (2年目)	52
	合計	1,763

受入れている企業数		367
2020年度末	1号	299
	2号 (1年目)	568
	2号 (2年目)	591
	3号 (1年目)	176
	3号 (2年目)	152
	合計	1,786

全構協・青年部 意見交換会 議事次第

(一社)全国鐵構工業協会

場所: 鉄鋼会館 801室

日時:2022年11月16日(水)

13:00~16:00

1. 全構協 永井会長挨拶

2. 出席者ご紹介 (名簿)

3. 意見交換会

(1) 全構協 事業概況 説明

- ① 喫緊の課題、推進事業(課題・テーマ) (特別委員会、常設委員会)
- ② 2022年度事業計画、事業実施状況

(2) 青年部の活動状況報告

- ① 青年部の活動状況
- ② 青年部活動を実施して行く上での課題・悩み
- ③ 青年部から全構協への要請事項、その他

(3) 意見交換

- ① 今後の人材育成に関する課題
- ② 業界の発展に向けて今後、自ら、取り組みたい課題など

◎ 懇親会

- ・時間 : 16:00 ~ 17:00 (予定)
- ・場所 : 鉄鋼会館 701 号室

以上

各都道府県組合と青年部 実情調査結果

1. 調査結果概略(47都道府県)

(1) 助成金

全ての都道府県組合(親会)から青年部に助成金が支給されている。

(2) 活動報告・収支報告

全ての都道府県組合(親会)に青年部から活動報告が為され、それに付随する助成金に関する収支報告も行われている。

2. 実情(概況)

(1) 各組合とも、親会と青年部の間で良好なコミュニケーションが図られている。

(2) 活動報告・収支報告の方法(形態)については、各都道府県にて多少の違いがあるものの、報告自体は着実に為されている状況。

⇒ 親会の理事会に青年部が出席して報告を行う、親会に書面を提出し、親会の理事会で事務局が報告する等が見受けられた。

(3) 上記の状況により、各都道府県青年部は、各組合の一端を担う組織であると判断できた。

以 上

今後の青年部のあり方に関する検討組織の設置について

1. 目的

各都道府県の青年部は、各都道府県の親会と連携して様々な活動を実施することにより、業界の発展に向けて、一定の役割を担っている。

地方組織におけるこの様な現状も踏まえ、全国組織である「全構協」と「全青会」が、今後より一層の連携の強化を図ることにより、業界の更なる発展、協会事業の活性化を実現したい。

については、今後の全構協と全青会の連携のあり方について検討を行う組織の設置を検討する。

2. 活動内容

- (1) 全青会の実情把握(各都道府県青年部との連携)
- (2) 全構協と全青会の連携と組織のあり方についての検討
- (3) 今後の青年部のあり方に関する提言

3. 検討メンバー

- ・ 全構協事務局と全青会メンバー
(※全構協執行部へ適宜報告を実施)

4. 検討期間

- ・ 2023年12月末まで

以 上

【理 22-7-報 4①】

〈 2022年度 〉 第 2 回 中期ビジョン検討委員会 議事録

1. 日 時 2022年9月30日（金）9：00～11：00
2. 場 所 鉄鋼会館 803会議室
3. 出席者 大島委員長（副会長）、
佐藤委員（理事；北海道支部長）、三浦委員（理事；東北支部長）、
出雲委員（理事；近畿支部長）、登尾委員（理事；四国支部長）
岩永委員（理事；九州支部長）
（事務局）新村

4. 議事次第

- 1) 委員長挨拶
- 2) 第1回委員会議事録の確認
- 3) これまでの全構協のあゆみについて
- 4) 過去の委員会からのテーマ選定
- 5) 今後の進め方
- 6) その他

5. 配布資料

- 1) 第1回委員会議事録（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1
- 2) 認定と協会のあゆみ（2022）・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 2
- 3) 全構協40年のあゆみ（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 3
- 4) 中期ビジョンテーマ選定（一覧）・・・・・・・・・・・・ No. 4

6. 議事要旨

- 1) 大島委員長挨拶
- 2) 第1回委員会議事録の確認
- 3) これまでの全構協のあゆみについて
協会の歴史や技術者資格の経緯など解る資料の配布
- 4) 過去の委員会からのテーマ選定
技術委員会へCAD利用の現状把握を依頼することを理事会にて了承された旨を報告
- 5) 今後の進め方について
委員長より将来のありたい姿について5,6年を目途に考える。検討の方法として次回からブレインストーミング形式で進めることで委員の了解を得た。
- 6) その他
① 次回開催は11月16日（水）9:30～11:30の予定とする。

以上

【議事内容】人材育成委員会 (2022年度 第2回)

1. 日時等 2022年9月30日(金) 9:25~11:10 於：全構協 第1会議室

2. 出席者 (7名)
- ・ 大竹委員長(副会長)
 - ・ 秋山委員(理事：関東支部長)
 - ・ 寺田委員(理事：北陸支部長) 次世代経営者研修WGリーダー
 - ・ 柏原委員(理事：中部支部長) 教育体系検討WGリーダー
 - ・ 妹尾委員(理事：中国支部長) 運営委員会委員長
 - ・ (事務局) 小貫専務理事、大原(文責)

3. 会議目的

- | | |
|------------------------------------|------------|
| (1) 確認事項等 (両WGメンバーの確認、目的、活動期間) | 小貫専務理事・事務局 |
| (2) 今後の進め方に関する諮問 (両WGリーダーからの報告) | 寺田・柏原両リーダー |
| (3) 両WGリーダーから人材育成委員会・全構協事務局への要請事項等 | 同上 |
| (4) 次回の人材育成委員会の開催日程 | 合議 |

4. 委員長挨拶

- ・ 昨日理事会で2つのWGメンバー等について報告を行い了解を得た。今後は研修そのもの等中身を詰めていく必要有り。このメンバーが中心となり忌憚のない意見を出してほしい。
- ・ (結び) この場のメンバーに感謝。多数の意見が出た。Webではここまでの議論は出来ないと思う。今後、各WGで進めて行ってほしい。

5. 申し合わせ事項等

(1) 活動期間と進め方

1) 次世代経営者研修WG

- ・ 10/13~14の第1回WGから活動を開始し、2023年夏以降から研修開始。
- ・ 第2回以降の工場実地調査についても事務局メンバーが加わり、取り纏めも行う。

2) 教育体系検討WG

- ・ 10/31の第1回WGから活動を開始し、2022年度末までの予定で活動。
- ・ 2022年度末までに研修素材(ツール)作成に至るにはスケジュールがタイト。本年度は各社や全構協にあるものを纏めて弱い部分を明らかにし、何をすべきかの提言を行う。(枠組みを作る) 全体像の整理を、まずのミッションとする。

(2) WGの名称(次世代経営者研修WG)

- ・ 本WGは現経営者も対象とすることから、その研修対象者が明確となる呼称を、次回の人材育成委員会にて報告する。

(3) 事務局への要請事項

- ・ 有意義なWGとする為、事前資料を各リーダーと事前調整し準備して、WGに臨む。

(4) 次回人材育成委員会 12月14日(水) 15~17時 於：全構協(第1会議室)

以上

創立 50 周年記念事業準備委員会

1. 開催日時

- 第 4 回 2022 年 10 月 5 日(Web 会議)
- 第 5 回 2022 年 10 月 20 日(Web 会議)
- 第 6 回 2022 年 11 月 7 日(Web 会議)

2. 事業内容

①記念式典・祝賀会

- 日時 2023 年 7 月 12 日(水)
- 会場 品川プリンスホテル(東京都港区高輪)
※全国から集まるアクセスの利便性から、品川を複数候補から選定
- 時間 式典／14:00-15:00(予定)・祝賀会／15:30-17:00(予定)
- 規模 300 人程度

②記念誌

- 内容 会長挨拶・祝辞・役員紹介・事業内容・50 年のあゆみ(年表)・各資料
特別企画(永井会長・米森相談役・高野全鉄評社長・山口全鉄評取締役／4 名鼎談)
計／60-80 ページ建て(予定)
- 部数 2,500-2,700 部発行(予定)
- 納期 2023 年 7 月末-8 月初め(式典後)

③記念事業

- 事業 鉄骨業界 PR 映像作成(時間／15-20 分)
- 内容 ・鉄骨の仕事にひた向きに取り組んできた人物を職種別に紹介
※従来作成の「信頼で築く、建築鉄骨の未来」から人に重点を置いた内容に
・視聴対象(ターゲット)を若年層(若手)・女性に置く
・HP・SNS・YouTube 等で配信し、業界 PR を図る
※個社 PR の映像作成ではない
- 展開 全国からの公募とする(3-5 人予定) ※一定の基準設定(公平公正に選定)
・全構協から各支部、支部・組合から構成員へ募集要項配信(11 月下旬)
・各組合・支部内で選定、全構協へ推薦
・全構協と選定社(者)、各支部・組合と打合せた後、撮影(来年 2~4 月)
・記念式典(祝賀会)で披露(予定)

3. 想定予算

※来期予算

式典・祝賀会関係	10,700,000		
記念誌関係	8,000,000		
記念事業関係	5,500,000	合計	24,200,000

〈 2022 年度 〉

第 2 回 技術委員会 議事録

1. 日 時 2022年10月13日(木) 15:00～17:00
2. 場 所 全構協第一会議室
3. 出席者 佐藤委員長、萩澤副委員長、西山副委員長、
船山、今泉、和田、佐野、山本、谷本、古賀 各委員
(事務局) 新村、瓜生

4. 議事次第

資料No.

- 1) 委員長挨拶
- 2) 前回議事録の確認
第1回技術委員会議事録案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1
- 3) 技能者WGの設置とメンバー選定について
(仮称) 建築鉄骨技能士の検討WGについて(8/29理事会資料)・・・・・・・・ No. 2
- 4) 中期ビジョン検討委員会からの検討テーマについて
工作図作成の効率化検討WGについて(8/29理事会資料)・・・・・・・・ No. 3
- 5) 認定工場の技術者・技能者の資格有効期限を含めた一覧表の管理について
技術者・技能者一覧表の確認方法・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 4
- 6) その他
次回開催について
- 7) 委員長講評

5. 議事要旨

- 3) 技能者WGの設置とメンバー選定について
事務局より技術委員会に依頼予定であった1名のメンバー選定について、技術委員会内に限定せず、各県組合理事より選定する方針となった旨が報告された。
- 4) 中期ビジョン検討委員会からの検討テーマについて
事務局より CAD ソフトについての技術委員会への調査依頼の趣旨を説明した後各委員より意見を頂き、一度、佐藤委員長より三役に調査の趣旨について確認をいただくこととした。
- 5) 認定工場の技術者・技能者の資格有効期限を含めた一覧表の管理について
資格者管理状況の確認方法を検討した結果、毎年県組合に依頼している「工場認定条件の保持状況確認」に資格者一覧表作成の有無について確認項目を追加することとした。
- 6) その他
次回開催について
次回は2022年12月8日(木)13時30分～とする。
(開催方式は対面とWebの併用)

以 上

【理22-7-報5】

工場認定条件の保持状況確認 回答率

2022.10.14

	都道府県	認定工場数	回答数	未回答数	回答率	体制変更有り		報告書未提出	
						工場数	比率	工場数	比率
	合計	290	289	1	99.7%	74	26%	15	5%
1	北海道	12	12	0	100.0%	6	50%	0	0%
2	青森	2	2	0	100.0%	0	0%	0	0%
3	岩手	8	8	0	100.0%	2	25%	1	13%
4	宮城	5	5	0	100.0%	1	20%	1	20%
5	秋田	6	6	0	100.0%	0	0%	0	0%
6	山形	8	8	0	100.0%	0	0%	0	0%
7	福島	3	3	0	100.0%	1	33%	0	0%
8	茨城	6	5	1	83.3%	2	40%	0	0%
9	栃木	2	2	0	100.0%	1	50%	1	50%
10	群馬	10	10	0	100.0%	2	20%	0	0%
11	埼玉	8	8	0	100.0%	3	38%	0	0%
12	千葉	10	10	0	100.0%	3	30%	1	10%
13	東京	10	10	0	100.0%	1	10%	0	0%
14	神奈川	1	1	0	100.0%	0	0%	0	0%
15	新潟	9	9	0	100.0%	3	33%	1	11%
16	富山	6	6	0	100.0%	0	0%	0	0%
17	石川	6	6	0	100.0%	1	17%	0	0%
18	福井	6	6	0	100.0%	0	0%	0	0%
19	山梨	4	4	0	100.0%	2	50%	0	0%
20	長野	10	10	0	100.0%	4	40%	0	0%
21	岐阜	2	2	0	100.0%	0	0%	0	0%
22	静岡	6	6	0	100.0%	2	33%	0	0%
23	愛知	26	26	0	100.0%	6	23%	5	19%
24	三重	7	7	0	100.0%	4	57%	0	0%
25	滋賀	4	4	0	100.0%	1	25%	0	0%
26	京都	11	11	0	100.0%	3	27%	1	9%
27	大阪	13	13	0	100.0%	1	8%	0	0%
28	兵庫	11	11	0	100.0%	3	27%	0	0%
29	奈良	1	1	0	100.0%	0	0%	0	0%
30	和歌山	1	1	0	100.0%	0	0%	0	0%
31	鳥取	1	1	0	100.0%	1	100%	0	0%
32	島根	2	2	0	100.0%	0	0%	0	0%
33	岡山	3	3	0	100.0%	0	0%	0	0%
34	広島	6	6	0	100.0%	5	83%	0	0%
35	山口	2	2	0	100.0%	0	0%	0	0%
36	徳島	3	3	0	100.0%	0	0%	0	0%
37	香川	5	5	0	100.0%	0	0%	0	0%
38	愛媛	7	7	0	100.0%	1	14%	0	0%
39	高知	7	7	0	100.0%	2	29%	0	0%
40	福岡	14	14	0	100.0%	7	50%	2	14%
41	佐賀	7	7	0	100.0%	2	29%	0	0%
42	長崎	対象工場無し							
43	熊本	6	6	0	100.0%	0	0%	0	0%
44	大分	2	2	0	100.0%	1	50%	0	0%
45	宮崎	7	7	0	100.0%	2	29%	2	29%
46	鹿児島	2	2	0	100.0%	0	0%	0	0%
47	沖縄	2	2	0	100.0%	1	50%	0	0%

【理 22-7-報 6】

全構協支部事務局 御中

建築鉄骨製品検査技術者講習会用試験体の譲渡について

一般社団法人全国鐵構工業協会
技術部

一般社団法人鉄骨建設業協会と共同で実施しております建築鉄骨製品検査技術者実技講習会・更新講習会で使用している木製柱試験体（SRC形状）について、2023年度実施の講習会より新試験体（コラム形状）への変更を予定しております。変更に伴い現在試用している試験体（SRC形状）の処分を予定しておりますが、希望がある場合には試験体の譲渡をさせていただきます。詳細については全構協技術部まで問い合わせいただきますようお願いいたします。

1. 物品名

建築鉄骨製品検査技術者実技講習会・更新講習会で使用している
木製柱試験体（SRC形状） 8体
（全9体の内、8体譲渡又は処分、1体保管）

2. 譲渡目的

現在では少なくなっているSRC形式の鉄骨形状を理解するために有効な物品のため教育利用等、公益性のある活用が可能なら譲渡を行う。

3. 譲渡対象

地域での教育目的や教育機関での利用、展示等、公益性のある利用目的に限る

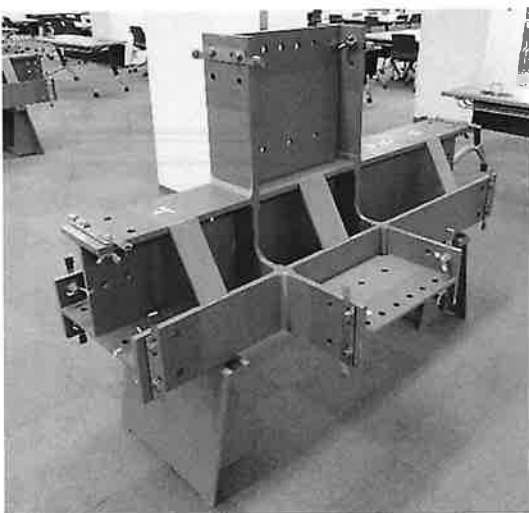
○： 組合や支部での事業として、勉強会や社内教育のための貸し出し等での利用、工業高校や大学等教育機関での利用 等

×： 特定の企業のみでの利用を目的とする場合

3. 譲渡時期

締 切：2023年2月末

譲渡時期：2023年3月～4月頃予定



木製柱試験体（金具は付属しません）



収納状況

（収納箱寸法：幅 2000×奥行 1200×高さ 1100mm）

【理 22-7-報 7】

各都道府県組合理事長及び事務局長 各位

「建築構造用鋼材便覧」の配布について

2022年7月12日の理事会にて、全構協と鉄建協との共同で保有していた「建築構造用鋼材便覧」を当協会分として約6,700冊を無償配布する予定とさせて頂きました。

無償配布の方法として、国際ウェルディングショーにて約500冊を配布いたしました。残りの便覧は、全構協会員の各都道府県組合へ構成員数に応じて送付し、無償で配布して頂く予定でしたが、各都道府県組合の事務所スペースや再送の手間などを鑑み、全構協事務局より直接構成員各社に3冊ずつ送付することと致します。

なお、郵送費削減の為、1月会報に併せて送付させて頂きますので宜しくお願い申し上げます。

以 上

新型コロナウイルス感染症に関する感染防止対策運用分類(案) (全構協が主催する会議の実開催時等)

(1) グループ、感染防止対応区分

グループ	対象	想定される会議例
グループ1	三役・理事・相談役	三役会、理事会 (*原則固定メンバー)
グループ2	全構協幹部および学識経験者 正会員・委員会委員等	委員会(常設・特別) (*原則固定メンバー)
グループ3	全構協の(準)内部団体 構成員・青年部	組合関係会議、共済関係 青年部関係(※出席者事前確定)
グループ4	関係先(外部)	賛助会員懇談会 賀詞交歓会(外部出席者)

対策4	対策3	対策2	対策1
①ワクチン接種 (3回目又は4回目以降)を 証明する書類(写)の事前提出 かつ	①ワクチン接種 (3回目又は4回目以降)を 証明する書類(写)の事前提出 又は	①ワクチン接種 (3回目又は4回目以降)を 証明する書類(写)の提示 又は	健康チェック
②PCR検査の実施の上、 陰性を証明する書類(写)の提出 ※検査費用は全構協負担	②PCR検査の実施の上、 陰性を証明する書類(写)の提出 ※検査費用は全構協負担	②PCR検査の実施の上、 陰性を証明する書類(写)の提示 ※検査費用は原則自己負担	

※現状、会議後の抗原検査は全対策段階で実施中

(2) 感染防止対応(Step別)案

段階	対応時期	対象会議
Step1	2022年11月以降	理事会 委員会、WG 青年部との意見交換会
		理事会 委員会、WG 賀詞交歓会
Step2	*今後の感染状況等を 確認の上、判断	理事会 委員会、WG 賀詞交歓会
Step3 (平時)		

対策4	対策3	対策2	対策1
グループ1(三役、理事) グループ2(委員等) グループ3(青年部等)		グループ4(外部)	
グループ1	グループ2	グループ3 グループ4	
	グループ1	グループ2 グループ3	グループ4

代表理事等の業務執行状況報告

法人法第91条第2項及び定款第24条第6項に基づき、2022年度4月から現在までの業務執行状況について、下記のとおり報告します。

なお、各事項の詳細内容については、2022年度第1回から第6回までの理事会理事会において説明・報告済であるため、本報告は、項目の報告のみといたします。

	代表理事	業務執行理事(専)	業務執行理事(常)
1. 協会の運営全般に関する事項			
(1) 通常総会の開催・運営、参加			
第55回通常総会(2022年 6月 15日開催)	◎	◎	◎
(2) 理事会の開催・運営			
・第1回理事会(2022年 4月25日開催)	◎	◎	◎
・第2回理事会(2022年 5月24日開催)	◎	◎	◎
・第3回理事会(2022年 6月15日開催)	◎	◎	◎
・第4回理事会(2022年 6月15日開催)	◎	◎	
・第5回理事会(2022年 7月12日開催)	◎	◎	
・第6回理事会(2022年 9月29日開催)	◎	◎	
・第7回理事会(2022年 11月15日開催)	◎	◎	
(3) 委員会の開催・運営、参加			
・運営委員会 9月1日	◎	◎	
・技術委員会 8月25日・10月13日	◎	◎	
<特別委員会>			
・中期ビジョン検討委員会 8月8日・9月30日	◎	◎	
・人材育成委員会 8月8日・9月30日	◎	◎	
(研修会WG、教育体系WG) 10月13日～11月4日 全6回		◎	
・50周年記念事業準備委員会 8月8日～11月7日 全6回	◎	◎	
(4) その他会議等の開催・運営、参加			
・三役会 4月8日～11月15日 全12回	◎	◎	◎
・全国事務局長会議 4月8日	◎	◎	◎
・鉄骨技術審議会 8月26日	◎	◎	
・共済推進担当者連絡会議 9月2日		◎	
(5) 2021年度事業報告及び決算報告とりまとめ	◎	◎	◎
(6) 業務監査対応 4月28日		◎	◎
2. 会員に対する協会運営方針等の説明・周知及び 会員意見の聴取			
(1) 各県組合総会及び支部会等への出席及び意見交換(一部県・支部)	◎	◎	
・愛知 5月19日 徳島 5月20日 北海道 5月20日 岐阜 5月23日			
・兵庫 5月27日 群馬 5月27日 広島 5月30日			
・栃木 10月7日 長崎 10月21日			
・中国支部 4月13日 九州支部 6月9日 北海道支部 8月4日 中部支部 9月7日			
(2) 賛助会員との懇談会	◎	◎	
・賛助会員35社(団体) 9月29日			
3. 陳情活動等			
(1) 陳情活動へのオブザーバー参加 7月22日～8月5日	◎	◎	
4. 特定技能外国人材への対応			
(1) 経済産業省との協議 10月3日 10月20日		◎	
5. 対外活動及び他団体との連携強化			
(1) 評価機構			
○ 総会 6月15日	◎		
(2) 鉄骨技術者教育センター			
○ 三役会 5月18日 ○ 理事会 5月31日	◎		
(3) 鉄骨製作支援協議会-運営会議 6月24日	◎	◎	
(4) その他団体等			
○ 日本溶接協会 総会 ○ JSCA 幹部との懇談	◎	◎	

○代表理事=6/15まで:米森会長、6/16以降:永井会長

○業務執行理事(専)=小貫専務理事 ○業務執行理事(常)=大橋常務理事(6/15まで)

その他の定例報告事項

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
令和4年3月31日現在 (令和3年度増減数)	/	27	30	2,194
令和4年4月25日 第1回理事会	3月31日	(0)	(12)	2,194
令和4年5月24日 第2回理事会	5月17日	3	1	2,196
令和4年6月15日 第3回理事会	6月6日	0	2	2,194
令和4年6月15日 第4回理事会	—	—	—	—
令和4年7月12日 第5回理事会	7月6日	3	1	2,196
令和4年9月29日 第6回理事会	9月22日	9	12	2,193
令和4年11月15日 第7回理事会	11月8日	2	3	2,192
累 計		17	19	2,192

《グレード別内訳》

S : 6 H : 286 M : 819 R : 598 J : 41 未 : 442 合計 : 2,192

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

令和4年11月8日現在

区分	登録・取消 承認	増							減		増減差	増減後 構成員数
		登録 社数	取消社数						合計			
			倒産	転・廃業	縮小	工場閉鎖	休業	その他				
平成16年度合計	65	13	22	18	2	1	45	101	-36	2,813		
平成17年度合計	35	15	16	14	2	3	28	78	-43	2,770		
平成18年度合計	49	8	15	19	6	3	29	80	-31	2,739		
平成19年度合計	51	13	19	20	6	1	20	79	-28	2,711		
平成20年度合計	49	17	17	29	0	4	41	108	-59	2,652		
平成21年度合計	37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538		
平成22年度合計	23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395		
平成23年度合計	14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260		
平成24年度合計	20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200		
平成25年度合計	13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171		
平成26年度合計	26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158		
平成27年度合計	36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169		
平成28年度合計	36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172		
平成29年度合計	56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201		
平成30年度合計	34	2	5	6	0	1	13	27	7	2,208		
令和元年度合計	25	0	10	9	1	0	14	34	-9	2,199		
令和2年度合計	32	0	12	6	1	0	15	34	-2	2,197		
令和3年度合計	27	1	10	7	1	0	11	30	-3	2,194		
令和4年度	第2回 (5月17日)	3	0	0	0	0	0	1	1	2	2,196	
	第3回 (6月6日)	0	1	0	0	0	0	1	2	-2	2,194	
	第4回 (-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第5回 (7月6日)	3	0	0	1	0	0	0	1	2	2,196	
	第6回 (9月22日)	9	0	3	1	0	0	8	12	-3	2,193	
	第7回 (11月8日)	2	0	1	0	1	0	1	3	-1	2,192	
	第8回 (月日)											
	第9回 (月日)											
	年度末処理											
4年度計	17	1	4	2	1	0	11	19	-2	2,192		
累計	1,080	501	687	539	128	79	1,175	3,109	-2,029	2,192		

1. 転・廃業内訳

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
転業 1社	転業 1社	転業 0社	転業 2社	転業 1社
廃業 4社	廃業 9社	廃業 12社	廃業 8社	廃業 3社

2. グレード別取消内訳

	S	H	M	R	J	未	合計
平成30年度	0	1	2	11	0	13	27
令和元年度	0	1	3	13	0	17	34
令和2年度	0	0	14	7	0	13	34
令和3年度	0	2	5	6	0	17	30
令和4年度	0	0	2	2	1	14	19

構成員登録社数・増減一覽表

(R4. 9. 23~R4. 11. 8)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回		
北海道	北海道	75			0	75		
	東北	青森	36			0	36	
		岩手	32			0	32	
		宮城	42			0	42	
		秋田	23			0	23	
		山形	28			0	28	
		福島	61			0	61	
		関東	茨城	61		1	-1	60
			栃木	50			0	50
			群馬	64			0	64
埼玉	53				0	53		
千葉	59				0	59		
東京	47				0	47		
神奈川	神奈川		43	1		1	44	
	新潟		新潟	86			0	86
			山梨	31			0	31
			長野	67			0	67
北陸	富山	38			0	38		
	石川	33			0	33		
	福井	42	1		1	43		
	岐阜	岐阜	74			0	74	
		静岡	94			0	94	
中部	愛知	129			0	129		
	三重	三重	62			0	62	
		合計	2,193	2	3	-1	2,192	

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
近畿	滋賀	31			0	31
	京都	47			0	47
	大阪	110		1	-1	109
	兵庫	74			0	74
	奈良	37			0	37
	和歌山	37			0	37
	中国	鳥取	14			0
島根		23			0	23
岡山		33			0	33
広島		79			0	79
山口		38		1	-1	37
四国	徳島	25			0	25
	香川	44			0	44
	愛媛	41			0	41
	高知	22			0	22
	九州	福岡	52			0
佐賀		25			0	25
長崎		18			0	18
熊本		24			0	24
大分		19			0	19
宮崎		25			0	25
鹿児島		29			0	29
沖縄	16			0	16	
合計	2,193	2	3	-1	2,192	

構成員登録申請企業一覧表

令和4年11月8日現在
令和4年11月15日決定

(2 社)

都道府県名	受付年月日	構成員登録企業名	代表者名	〒	所在地	年間加工能力	従業員数	グレード	登録番号
1 神奈川県	R4.10.17	有限会社湘南メタルテック	近藤 信一	250-0212	神奈川県小田原市西大友245	14 t	2 人	未	14-174
2 福井県	R4.10.24	竹内工業株式会社	竹内 要	915-0857	福井県越前市四郎丸町13-21-16	2,280 t	7 人	R	18-102
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		

構成員登録取消企業一覽表

(3 社)

	都道府 県名	加 入 年月日	構成員 登録No.	受付年月日	構成員登録取消企業名	代表者名	取消理由	グレード	取消承認 年月日
1	茨 城 県	R2.1.17	08-198	R4.10.17	有限会社宮本組 関東工場	宮本 幸司	工場撤退の為	未	R4.11.15
2	大 阪 府	H15.1.21	27-257	R4.10.3	中川鉄建株式会社	中川 敏	協会加盟に利点が少ない為	未	"
3	山 口 県	S59.11.28	35-103	R4.11.7	株式会社中島工業	中島 憲久	廃業	未	"

建築着工面積と鉄骨推定所要量推移

(国土交通省建築着工統計速報による)

2022年11月4日作成

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成15年度計		176,531	103.2	64,378	104.7	9,402	85.8	6,907,900	103.2
平成16年度計		182,774	103.5	69,927	108.6	6,834	72.7	7,334,400	106.2
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度計		133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度計		131,078	98.5	50,048	98.7	1,464	52.5	5,078,000	97.5
2019(令和元)年度計		124,936	95.3	44,928	89.8	1,480	101.1	4,566,800	89.9
2020(令和2)年度計		114,114	91.3	40,218	89.5	1,878	126.9	4,115,700	90.1
20(令和3)年度	4月	10,536	105.4	3,876	109.9	120	60.3	393,600	108.5
	5月	10,422	110.4	3,876	110.1	108	39.1	393,000	107.4
	6月	10,850	109.3	4,124	113.0	175	205.9	421,150	114.1
	7月	10,664	109.9	3,701	104.5	109	259.5	375,550	105.4
	8月	9,537	101.3	3,225	110.7	74	137.0	326,200	110.9
	9月	9,948	98.8	3,427	101.8	179	71.3	351,650	100.7
	10月	12,094	125.8	5,309	161.7	220	205.6	541,900	162.4
	11月	10,125	108.0	3,464	115.5	141	49.3	353,450	112.5
	12月	10,655	116.1	4,274	126.4	364	161.1	445,600	127.6
	1月	8,622	102.9	3,477	109.2	145	151.0	354,950	109.9
	2月	9,221	107.3	3,314	107.5	230	116.2	342,900	107.8
	3月	9,792	93.8	3,513	93.3	101	174.1	356,350	93.9
	年度計		122,466	107.3	45,580	113.3	1,966	104.7	4,656,300
20(令和4)年度	4月	11,250	106.8	4,031	104.0	294	245.0	417,800	106.1
	5月	9,704	93.1	3,414	88.1	301	278.7	356,450	90.7
	6月	11,045	101.8	4,247	103.0	130	74.3	431,200	102.4
	7月	11,248	105.5	4,349	117.5	246	225.7	447,200	119.1
	8月	10,418	109.2	3,501	108.6	127	171.6	356,450	109.3
	9月	9,682	97.3	3,216	93.8	74	41.3	325,300	92.5
	10月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	11月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	年度計		63,347	102.2	22,758	102.4	1,172	153.2	2,334,400

(単位) 面積 1,000㎡
前年同期比 %

(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 ㎡ × 100kg
鉄骨鉄筋造 ㎡ × 50kg

2022(令和4)年度 主要会議日程表

2022.10.18 現在

↓ 夏期・年末年始休日
 ↓ 土日・祝日
 ↓ 振替休日
 ↓ 休日出勤

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

開催年月日	三役会	理事会	総会	全国理事会 事務局会長議	委員会	その他	備考
2022年 (令和4年)	4月8日 金 12:00			15:00 ※			※全国事務局局長会議
	4月25日 月 12:00	15:00			17:30 懇親会		沖縄開催
	5月17日 日 14:30						12:00 全統評価取締役会
	5月24日 日 10:30	14:00 ※					※決算・事業報告・総会招集
	6月15日 水 9:00	11:30	15:00		17:00 懇親会		14:00 全統評価株主総会
	7月5日 火 14:00				17:30 懇親会		
	7月12日 日 11:30	15:00			17:30 懇親会		
	8月25日 木 14:00						
	8月26日 金				11:00 技術審議会		
	9月29日 日 9:30	11:30			15:00 賛助会員との懇談会		
	10月18日 日 14:30						12:00 全統評価取締役会
	11月8日 火 14:00						
	11月15日 日 10:30	14:00			17:30 懇親会		
	11月16日 月				13:00 青年部会との意見交換会		16:00 青年部会との懇親会
	12月15日 木				18:00 事務局職員との懇談会		12:00 全統評価取締役会
2023年 (令和5年)	1月20日 金 9:30	12:00		15:00 ※	16:30 新年賀詞交歓会		※全国理事長会
	2月14日 日 14:00						
	2月21日 日 10:30	14:00					
	3月7日 日 14:30						
	3月14日 日 10:30	14:00					12:00 全統評価取締役会

開催団体	開催年月日	内容
【青年部会】 総会・全国大会	2022年 月 日 ()	
	2023(令和5)年度 予定	
	2023年4月7日(金)	三役会(12:00) 全国事務局局長会議(15:00) 懇親会(16:30)
	2023年5月16日(火)	三役会(14:30) 参考:全統評価株主総会(12:00)
	2023年5月23日(火)	三役会(10:30) 理事会(14:00)
	2023年6月16日(金)	三役会(9:30) 理事会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00) 参考:全統評価株主総会(14:00)
その他		

< 北海道支部 > 状況報告書

2022年(令和4年) 9月分

(A) 提出日 令和4年10月11日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・6日(火) 三役会、役員会 ・20日(火) 例会、BCP説明会	・2日(金) 共済推進担当者連絡会議(web) ・20日(火) 鉄骨部会・道央支部共催 ファブリケーターのための事業継続計画(BCP)説明会 ・20日(火)～21日(水) 鉄骨製作管理技術者(1級)受験対策講習会 ・27日(火)～28日(水) 鉄骨製作管理技術者(2級)受験対策講習会 ・26日(月) 三役打合せ
函館		
室苦小樽		
旭川	・12日(月) 営業会議(4社)	
北見	・21日(水) 委員会(例会) ・29日(木) 3地区支部長・事務局会議	
帯広	・29日(木) 3地区会議役員会(北見開催)	
釧路	・12日(月) 例会	

(B)

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	3 ~ 9	2 ~ 5	1 ~ 3	90 ~ 110			○			
函館	2	3	2	80 ~ 100			○			
室苦小樽	5 ~ 9	0 ~ 3	1 ~ 2	85 ~ 100			○			
旭川	10	3 ~ 5	/	100 ~ 120			○			
北見	/	1 ~ 3	/	80 ~ 100			○			
帯広	3 ~ 8	2 ~ 7	1 ~ 2	100		○				
釧路	8	5 ~ 6	/	100 ~ 120			○			

(C)

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積みについては、S・Hグレードはほとんどが「3～9ヶ月」、Mグレードはほとんどが「2～5ヶ月」、R・J・未認定はほとんどが「1～3ヶ月」となっている。工場稼働率はS・Hは全社が「90～100%」、Mはほとんどが「90～110%」、R・J・未認定はほとんどが「75～100%」となっている。見積りは「少ない」が52%となり「同じ」の45%を上回った。見積りは「少ない」と「同じ」が毎月のように一進一退している。資材価格の高騰に各社とも非常に苦労しているほか、図面の決まりが悪く工場の稼働にも悪い影響が出ている。共同積算:1-9月 63,698t 平年比60% 前年比63%
函館	・各会員共に、先月と変わらず稼働率は高めで推移しているが、年末以降の手持ち及び見積り量は少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・来年春以降の概算見積りの依頼が出てきているが、先月に引き続き小規模(100トン程度)、中規模物件の案件数が公共の物件も含めて圧倒的に減少している。同時に稼働率が減少しているところもある状況。
旭川	・現在はかなり忙しい状況。Mグレードも見通しが改善し、2月頃まで決まってきた。
北見	・現在冬場に向けての見積りもない状況で、長い冬の予感です。
帯広	・現状の各社工場稼働は順調であるが、農業施設全体が少ない中で延期や中止になってきており、見通しがつかない状況。
釧路	・各工場の稼働率は高い数字を維持しており忙しく、10月もこの状況が続くそうです。

＜ 北海道支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 10月分

提出日 令和4年11月7日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・4日(火) 三役会、役員会	・19日(水) 第5回 鉄骨部会役員会 ・13日(木)、20日(木)、28日(金) 工場審査 3社 ・24日(月) 鉄骨製作管理技術者講習会 講師打合せ
函館	・15日(土) 例会、懇親会	
室苫小樽	・BCP説明会資料送付	
旭川	・10日(月) 営業会議(4社) ・BCP説明会資料送付	
北見	・26日(水) 委員会(例会)	
帯広		
釧路	・28日(金) 例会	

(B)

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	3 ~ 9	1 ~ 3	1 ~ 3	90 ~ 110			○			
函館	2 ~ 3	2 ~ 3	2 ~ 3	70 ~ 100			○			
室苫小樽	5 ~ 9	0 ~ 3	0 ~ 2	85 ~ 100		○				
旭川	9	1 ~ 4	/	100 ~ 120			○			
北見	/	1 ~ 2	/	80 ~ 100		○				
帯広	2 ~ 8	1 ~ 3	1	100			○			
釧路	8	4	/	100 ~ 120			○			

(C)

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積みについては、S・Hグレードはほとんどが「3~9ヶ月」でほぼ横ばい、Mグレードはほとんどが「1~3ヶ月」で若干減少傾向、R・J・未認定はほとんどが「1~3ヶ月」でほぼ横ばいとなっている。工場稼働率はS・Hは全社が「90~100%」でほぼ横ばい、Mはほとんどが「90~100%」で若干減少傾向、R・J・未認定はほとんどが「75~110%」で若干増加傾向となっている。見積りは「少ない」が50%となり「同じ」が47%と拮抗している。資材価格の高騰に各社とも非常に苦労しているほか、中小物件が少ないとの声が増えている。図面の決まりが年々悪化していることに加えて、建設業2024年度問題でさらに悪化することを憂慮する意見もある。 共同積算:1-10月 80,068t 平年比69% 前年比75%
函館	・各会員共に、先月と変わらず稼働率は高めで推移しているが、年明けの手持ち及び見積り量は少ない。価格については大きく変わらなし。
室苫小樽	・市内の民間工事案件はあるが、地元で製作している案件はなく地域外で製作している様子。鋼材の値上げ状況はやや落ち着いてきている。見積り案件は、来年以降の概算見積り依頼が多く、本見積りは少ない状況。
旭川	・現在はかなり忙しい状況。Mグレードは2月頃まで受注の見通しがあったが、一部物件が延期となり空きの工場が出てきた。
北見	・わずかながら、来年の計画・概算見積りの話が聞こえてきている。
帯広	・新規の中・小物件は少なく、時期的にも期待薄。各工場稼働も12月以降は低調気味の様子。
釧路	・各工場の稼働率は100%に近い状況だが、この状況は12月くらいで終わり、年明けになると一気に下がる見込み。

<東北支部> 状 況 報 告 書
2022 年（令和 4 年）9 月分

(A)

提出日 令和 4 年 10 月 3 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○9/15 正副理事長会議、積算業務担当者会議、BCP 講習会、青年部幹事会	○9/5 建専連東北・東北地整建政部意見交換会（仙台） ○9/5～7 NDI-UT レベル 1 学科講習会（多賀城）
岩手県	○9/9 令和 4 年度後期性能評価申請書記入説明会 ○9/13 盛岡支部会 ○9/14 県南支部会 ○9/15 青年部理事会	
宮城県	○9/14 鉄骨製作管理技術者受験対策講習会	
秋田県	○9/27 営業担当者会議 ○9/29.30 鉄骨製作管理技術者講習会	
山形県	○9/15 青年部役員会 ○9/30 「鉄骨製作管理技術者」受験準備講習会	
福島県	○9/2 第 2 回営業責任者会議<中止>	
	○9/16,17 実践建築設計 3 次元 CAD 技術講習会 ○9/24 青年部ゴルフコンペ ○9/29 第 4 回青年部役員会	

(B)

都道府県	①手持ち工事量（ヵ月）			②稼働率（%）	③見積物件の傾向			④工場加工費（千円）		
	H	M	R・J	稼働率（%）	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	5～12	2～7	2～5	80 ～ 130		○				
岩手県	6～11	2～4	0.5～3	80 ～ 110			○			
宮城県	5～12	2～6	1～3	60 ～ 100			○			
秋田県	5～8	3～4	1～8	80 ～ 120			○			
山形県	3～10	2～10	1～4	90 ～ 130			○			
福島県	6～7	1～12	1～12	60 ～ 130			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	見積物件が先月よりは改善傾向ではあるが、全体的に少ない。大型工事やコロナ感染による影響から、製作応援要請が増加してきている。しかし、材料納期・図面承認の遅れで現場の工程管理が難しく、各社情報交換しながら、協力業者と仕事を調整する状況が増えている。
岩手県	工場稼働率・手持ち工事量は高水準を維持して横ばいであるが、グレード間のバラツキが大きくなりつつある。工場加工費も横ばい傾向で鋼材の入手に関しては若干改善傾向との声も聞かれる。しかし先月以来の見積物件数の低下が続いており、年末～年明け、春先にかけての不安感が一層広がっている。
宮城県	鋼材の価格変動は落ち着きを見せるものの、副資材関係の単価の値上げ依頼が多い。見積もり物件数も秋口の需要に期待するほどの増加は見込めず、工事量・稼働率共に年度内は大きな変動は無いものとみる。
秋田県	見積もり件数が少なくなってきた。出しても鋼材や全ての物の高騰で見積もりへのせるも今度は決まりが良くない。価格も依然として上らず冬場へ向けて先行き不安。
山形県	県内見積物件数は変わらず低調傾向。先が読めず厳しい状況が続いている。
福島県	工程の大幅なズレ、現場管理者のレベル差、チェックの遅延といった外的要因が稼働率に大きく影響している話が多く聞かれます。これに伴い稼働率が 100% 超になる場合や極端に下がる場合も散見されます。地元中小工事が少なく、業者間で稼働率・受注残の二極化はしばらく続きそうです。ただ、同業者間での共同製作も多くあるようですのでグレード問わずお互い正確な情報交換が重要となるかと思えます。

＜東北支部＞ 状 況 報 告 書

2022 年（令和 4 年）10 月分

(A)

提出日 令和 4 年 11 月 4 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○10/6,7 フィットテスト実施者講習会 ○10/12 積算業務担当者会議 ○10/18 会員親睦ゴルフコンペ	○10/21 東北鉄構工業連合会積算業務委員会 (仙台) ○10/25 10 月期定例役員会 (仙台)
岩手県	○10/4 呼吸用保護具フィットテスト実施者講習会 ○10/12 県南支部会 ○10/17 盛岡支部会	
宮城県	○10/12 営業担当者会議、BCP 講習会、溶接ヒュームフィットテスト講習会	
秋田県	○10/19 定性的フィットテスト講習会	
山形県	10/1 「鉄骨製作管理技術者」受験準備講習会 10/6 青年部役員会 10/12 超音波探傷技術研究会 役員会	
福島県	○10/6 第 3 回理事会、BCP 説明会 ○10/21 定性的フィットテスト講習会 ○10/27 青年部第 5 回役員会	

(B)

都道府県	①手持ち工事量 (ヵ月)			②稼働率 (%)	③見積物件の傾向			④工場加工費 (千円)		
	H	M	R・J	稼働率 (%)	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	5～13	2～7	1～4	50 ～ 120			○			
岩手県	6～12	2～7	1～3	80 ～ 100			○			
宮城県	6～13	2～6	0.5～3	60 ～ 100			○			
秋田県	6～7	3～5	0.5～7	85 ～ 110			○			
山形県	3～9	2～10	1～2	100 ～ 120			○			
福島県	6～9	1～12	1～12	70 ～ 140			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	多くの工事で図面承認の遅れにより、工期・工程がズレ込んでいる中、鉄骨製作の応援要請が増加傾向で、工場稼働が繁忙な FAB と 50% 台稼働の FAB とバラツキが目立つ。現場工程の変更にも早めの情報交換で対応しながら、何とか仕事を調整している様子。見積物件は変わらず少なく、年内は価格も厳しい状況が続くようだ。
岩手県	グレードにより差があるものの工場稼働率がここ数年で最も高くなり、手持ち工事量・工場加工費は横ばいを維持しているが、3ヶ月間見積物件数が少ない状況が続いている。引き続いて年明け～春先にかけての不安感が拡大する中、鋼材・資材価格の他電気料金などの値上がりも見込まれ、非常に厳しい状況が続くことが予想される。
宮城県	先月から大きな変動は見られず、見積もり物件数も低調。稼働率・工事量が比較的高いのは他工場からの外注が多い事もあると思われる。地元物件が少なく M グレード以下は稼働率などにもばらつきがみられる。
秋田県	地元物件が少ない状態が続いている。手持ち工事量、稼働率ともに大きな変動はないが、受注単価は相変わらず厳しく冬場にかけて先行き不安である。
山形県	県内見積物件数は今月も少なく、全体的に厳しく状況が続いている。今後の仕事量確保が心配される。
福島県	来春以降の見積が出始める時期ですが、特に県内物件の引き合いが少ないようです。公共工事はカーボンフリーや県木材利用推進等の掛け声もあり、一部だけ鉄骨といった設計も確実に増加しているようです。民間中小物件は少なく、規模縮小や工期・設計内容変更、製作の手待ち発生等、経費がかさむケースも多いようです。各グレード共、工場稼働率は高い水準の状況です。

＜ 関東支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 9月分

提出日 令和4年10月6日

(A)	①全構協推進事業の現状	②支部活動状況
都道府県		
東京都	13日 後期工場審査説明会、15日 理事会、M部会、青年部会、 23、24日 鉄骨製作管理技術者受験準備講習会	関東支部活動・行事等
千葉県	1日(木)支部長会議 2日(金)～4日(日)西部支部親睦旅行 5日(月)全国M幹事会 22日(木)三役・支部長会、理事会、理事・賛助会合同会議 30日(金)青年部役員会	
神奈川県	5日 Mグレード部会、15日 事業運営委員会、21日 総務・教育技術委員会、役員会	
茨城県	3～4日 UTレベル2学科講習会 6日 実習生溶接上級試験 9日 水戸産業技術学院(特定行政庁講習会準備打合せ) 30日 特定行政庁講習会(鉄骨適正品質)1回目 その他技能実習定期監査	
埼玉県	2日(金) PAWG(フェイズドアレイ実証実験) 7日(水) 総務委員会 14日(水) 組合理事会 21日(水) 性能評価研修会 22日(木) 県西支部 28日(水) 県東支部会 29日(木) 県南支部会、県北支部会	
栃木県	9/7・9/14・9/26 10周年記念事業実行委員会、9/8 定例理事会、9/8 BCP講習会、 9/21 運営委員会、9/22 青年部役員会	
群馬県	9/6 50周年記念事業開催準備会議	
長野県	9/10 UT学科講習会 9/29 常任理事会	
山梨県	9日理事会 10日溶接JIS検定 12日山梨県労働災害防止団体連絡会 22日青年部会 24日全国溶接技術競技会 青森大会(～25日) 27日教育技術委員会 28日 溶接安全委員会 29日山梨県産業安全衛生大会 29日経営近代化委員会	
新潟県	9/6～7 工場審査事前説明会(6工場) 9/9 経営近代化委員会 営業担当者会議 (15名参加) 9/14 新潟支部 ゴルフコンペ 9/16 鉄骨製作管理技術者1級 学科 講習会(42名参加) 9/17 鉄骨製作管理技術者2級 学科講習会(20名参加) 9/27 第14回交流ゴルフ大会、 9/29 BCP説明会(19名参加)	

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
東京都	5～14	5～7	2～4	60～100		○				
千葉県	3～12	4.0	-	100～120	○					
神奈川県	8～11.5	2～5	2.0	60～105		○				
茨城県	6～10	4～8	3～4	90～100		○				
埼玉県	3～12	2～7	1～5	25～100		○				
栃木県	9～15	2～10	1～5	70～200		○				
群馬県	8～12	3～6	2～4	85～120		○				
長野県	6～12	4～9	2～7	50～120			○			
山梨県	10～12	0.5～7	2～3	70～120			○			
新潟県	7～17	3～8	3～4	95～100		○				

(C)	現状と今後の状況の見直しについて
都道府県	
東京都	材料費、販管費のコスト上昇分の価格転嫁が厳しい状況が依然として続いており、材料費のアップ分は価格交渉に応じて、労務費のアップ分は応じてくれないなどのケースが多い。山積み量は年内一杯を確保している社が大半で、見積物件依頼もそこそこ増えて、繁忙となっているファブもある反面、工期のずれで仕事待ちの状態が発生するなど波がある。
千葉県	材料の高騰に歯止めが掛からないので、先行きの仕事があっても工事価格が定まらまい状況。
神奈川県	ガス、電気料金等の値上げ幅が大きくコストの見直しが急務となる。設計変更や工程のずれ、鋼材納期の遅延などで地方からの製作支援の話が多くなってきました。 木造とのハイブリットが多くなったと感じるほど見積が増えてきており、鉄離れを懸念する声がある。 インボイス制度、電子帳簿保存法に関するアンケート等を実施するゼネコンが増えてきており、対策には時間を要する声がありました。
茨城県	地場案件が出ているので、県内のファブで受注出来るようにしたい。受注単価については、鋼材以外の物も全て値上がりしているの で、価格転嫁出来るよう原価管理をしっかりと適正価格にて受注出来るようにしたい。 援や協力依頼のお話をたくさんいただくが、製作期間が無い突貫的なものが多い。予定の工程がズレたり一次加工業者の多忙による遅れでしわ寄せが製作側へきている。軽量形鋼の胴縁加工などの業者も忙しいようで、早めに指示図をまとめないと建方に間に合うように受けてくれない。10月受注分から値上げしますという各営業さんからの声がうるさい。
埼玉県	電炉大手がこの9月の契約価格を一部下げるなど、値下げは2年5か月ぶりとのこと。気になるのは業界のパワーバランスなのか、薄鋼板や異形棒鋼などは下がるが、建築用の形鋼類などは需要が堅調に推移していることから価格を据え置くとのこと。
栃木県	・運搬車両の積載がうるさくなってきている。・書類、対物2検査の為、全数並べや検査回数が多く対応に苦慮している。 ・鋼材切断穴あけなど一次加工業務がひっ迫しており納期がかかっている。・来年度の受注も多量仕事としては安定している。 【要望事項】鉄工関係の資格を減らしてほしい。
群馬県	各グレードとも手持量はありますが、手離れがよくない。また、度重なる鋼材、資材の値上げにおいて、契約時値上げ分の物価スライド条項をすすめたい。
長野県	・仕事はあるが人手不足により受注をセーブしている。溶接工を含めての人材確保に困っているところが多い。 ・現状は忙しく、来年秋口頃までは大型物件等、手持ちはある状況のところもあれば、図面の決まりが悪く山積みにも波があるとのこと、先行きが不透明の 声もあがっている。 ・仕事はあるが、鋼材等の値上りにより、加工単価等懸念される。また、BH値上り、納期6ヶ月で問題あり。形鋼は高値安定。 ・外洗先が見つからない。 ・自社のみで完結できなくても何かの形で対応していく事が今後は求められる。
山梨県	山梨県内の公共物件は、話題性もあり西桂町の新庁舎の建設計画が目立つ程度で、電子部品や食品加工工場、物流センターや倉庫の新築工事など中部横断道の静岡県側での全線開通を受け民間の計画があるものの、中止や延期となっている物件もあり全般的に県内の見積もり件数は少なく、首都圏依存は続いている。
新潟県	鋼材価格の上昇分が加工費を圧迫し収益状況は厳しい状況が続いている。首都圏物件はこの先も計画は旺盛であるが、地元物件は少ない。現在、首都圏物件をメインとする大規模工場やその協力工場の稼働率は高水準を保っているが、地元案件に頼っている小規模工場の稼働率は低く、2極化が目立つ。

< 関東支部 > 状況報告書

2022年(令和4年) 10月分

提出日 令和4年11月4日

(A)	①全構協推進事業の現状	②支部活動状況
都道府県		
東京都	1日 東構協ゴルフコンペ 5日 特定技能外国人に関する研修会 20日 理事会、M部会、青年部会 24日 マスクフィットテスト講習会	関東支部活動・行事等
千葉県	7日(金)青年部ゴルフコンペ 13日(木)～14日(金)フィットテストトレーナー育成講習会	10/6 第3回関東支部運営委員会 10/27 第3回関東支部会(群馬開催) 10/27 関東支部事務局長会議(群馬開催)
神奈川県	6日 事業運営委員会、7日 Mグレード部会、13日 総務委員会・役員会、 27～28日 関東支部会・事務局長会議、29日 固形エンドタブ溶接技能者技量検定 性能評価工場審査1件	
茨城県	7日 特定行政庁講習会(鉄骨適正品質)2回目 11日 フィットテスト講習会 20社参加 13日 第4回理事会 29日 東関東非破壊検査研究会 研究発表会	
埼玉県	5日(水) 総務委員会 24日(月) 組合会計監査 6日(木) STK会(組合親睦ゴルフ大会)打合 25日(火) 県東支部会、埼玉県建設 12日(水) 組合理事会 産業担い手確保・育成ネットワーク幹事会 13日(木) PAWG(フェイズドアレイ実証実験) 27日(木) 県北支部会、工場審査サ ポート2社	
栃木県	10/7 設立10周年記念式典、10/7 臨時理事会、10/9 10周年記念BBQ大会、 10/23 10周年記念ゴルフコンペ	
群馬県	10/5 50周年記念事業開催準備会議、10/7 正副理事長と自民党県議団との政 調懇談会、10/26 マスクフィットテスト講習会	
長野県	10/4 青年部役員会 10/6 BCP研修会 及び 下期性能評価研修会 10/11 中小企業団体事務主任者会合 10/14 東北信技術委員会「鉄工」 10/28 中南信技術委員会「とび」 10/28 中小企業団体事務主任者会	
山梨県	7日 理事会 15日 溶接JIS検定 工場審査事前説明会 4日、12日 20日 安全点検/ストロール(11社) NDI鉄骨超音波実技講習 25、26日 溶接安全委員会 アーク溶接特別教育 27～29日 21日 青年部会 25日 教育技術委員会 5t未満クレーン運転特別教育 31日、11月1日 28日 経営近代化委員会	
新潟県	10/5 第2回総務委員会、10/7 経近委員会 設計担当者会議 10/11 第4回正副理事長会議、10/14 第4回理事会 10/18～25 工場審査事前サポート(3社)	

(B)	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)			
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
都道府県											
東京都	5～14	5～7	2～4	60～100		○					
千葉県	3～12	3～5	-	90～100	○						
神奈川県	7～12	2～8	1～2	70～110		○					
茨城県	6～12	6～10	3～4	90～100		○					
埼玉県	3～10	2～8	1～4	25～100		○					
栃木県	9～14	4～10	2～5	80～120		○					
群馬県	6～14	2～6	2～3	85～120		○					
長野県	5～11	3～10	1.5～7	75～120			○				
山梨県	6～12	1～8	2～3	80～120			○				
新潟県	6～13	3～7	2～3	95～100		○					

(C)	現状と今後の状況の見通しについて
都道府県	
東京都	鋼材の納期は長期化が続き、高止まりした価格に変化はなく、材料費、販管費などのコスト上昇分の価格転嫁が厳しい状況は変わりない。価格交渉で材料費のアップ分は応じて、加工費、労務費のアップ分までは応じないケースが多い。見積物件依頼も増えつつあり、山積み量は大半が年内一杯を確保しており、来夏を超える山を確保しているファブもある。また、図面の決まりが遅く、建方までの期間がタイトな案件も少なからずあり、非常に苦勞をされているところがある。
千葉県	材料の高騰に止まりが掛からないので先の仕事があっても工事価格が定まらない状況。見積り及び契約は慎重に対応しているが仕事量は増えつつある。
神奈川県	規模に限らず見積依頼は増えてきている。Mグレードを中心に6カ月以上の山積みを抱える会員も増えている印象です。鋼材納期についてはだいぶ緩んでは来ましたが、厚板に限っては逆に納期がかかるようになって来た。一次加工も量によっては納期がかかっており、タイコ部分を先行して作る事が難しい事例もありました。
茨城県	0月以降見積りが減ってきており、年明けから4月ぐらいまで、地元物件がない。毎年同じではあるが、商社系の仕事を入れたい、手強い仕事を入れていくしかない。材料は高値が周知されてきて、見積りに反映出来ているが、その他溶材や、光熱費等も値上がりしているため、全体的に価格を上げていかなければならない。図面が思うように決まらずや材の入荷遅れもあり、自社物件と並行して製作可能な範囲で他社ファブの協力仕事をしている。どのファブも工程通りに材が入荷しなかったり一次加工業者の遅れ等でしわ寄せが製作側へきて製作期間が苦しくなってしまうようだ。依然として鋼線加工の業者も忙しいようで、早めに指示図をまとめないと建方に間に合うよう受けてくれない。Mグレードなのに1年以上未決の話がきてる。先の話過ぎて扱いに困る。
埼玉県	昨今、忙しい状況が続いているが、この忙しさは他県のFabがコロナ禍で操業が止まり、納期の関係で製作依頼が当県の組合員に来ている要因もある。今後、首都圏の大型物件がいくつかあって繁忙期を迎える一方、中小物件は客先の業種や材料費の高騰などの影響もあってか低調で、組合員の中で2極化が起こりつつある。
栃木県	・仕事量が多くなってきているようで毎日のように応援願いが来る。 ・メーカーから半年以上先のロール単価を提示していただけない。また、確約も取れない。・2023年度も発注量が多く受注が安定している。
群馬県	夏頃に比べ見積り量が回復傾向であり、来年以降の案件も多く明るい兆しがみられる。また、材料価格の高騰も落ち着きだし、材料納期もBCP以外は通常となって来た。
長野県	※現状と今後の見通しについて ・「金属アーク溶接等作業における健康障害防止措置」が強化され、労基署の立入調査があった。今後、更に強化して行くと考えられているので周知徹底が必要。 工場の繁忙期中、別の負担が増している。 ・大型物件、引き続き有りますが地元での小・中物件の見積り依頼は減少している。 ・ゼネコン・設計事務所の能力・判断力の欠如がどんどんひどくなっている。その為、決まりが悪い。 ・来年、秋口まで引き続き繁忙となっていますがそれ以降の物件が極端に減少するのでは？先行きが不透明です。 ・各種値上げ等により受注金額に対する加工費のバランスが悪くなっています。 ・人手不足の影響はネット求人等により少しづつ増員が見込めてきています。 ・柱の寸法 大梁の寸法。検査は全社確認を行うことを徹底した方がよい。(やってない認定工場あるとの声が聞こえてきた)
山梨県	HTBの在庫はあり、品薄の情報はないものの、メッキ品に納期がかかっている。 鋼材価格の高騰に加え、国内の溶接ワイヤメーカー大手2社は9月、10月とそれぞれ相次いで15%程度の値上げを行っており、また9月に発生した台風11号は韓国ボスコ浦項製鉄所に大きな被害をもたらした。鋼材の他溶接ワイヤの輸入にも少なからず影響があるものと思われる。
新潟県	鋼材価格及び購入品の上昇分が加工費を圧迫し収益状況は厳しい状況が続いている。現在、首都圏物件をメインとする大規模工場やその協力工場の稼働率は高水準を保っているが、地元物件に頼っている小規模工場の稼働率は低く、2極化が目立つ。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2022年（令和4年）9月分

(A)

提出日 令和4年10月12日

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	1日(木) 青年部会・9月度役員会 20日(火) 技術・品質サポート(未認定1社) 21日(水) 技術・品質サポート (Mグレード1社・Rグレード1社) 26日(月) 技術・品質サポート (Rグレード1社) 27日(火) 技術・品質サポート (Mグレード1社) 30日(金) 建専協・第1回役員会	2日(金) 第一回共済推進会議(WEB) 20日(火) 全構協青年部会長会議(東京) 29日(木) 全構協第6回理事会(東京)
石川県	4日(日) 石川県鉄骨工業協同組合第11回親睦ゴルフ大会 9日(金) 第5回青年部役員会 15日(木) 第3回三役会、第4回理事会	
福井県	8日 定例三役会、理事会 13日 総務委員会 13日 UTレベル1学科講習会(～15日) 16日 共同受注委員会 21日 認定部会役員会、周年事業実行委員会、例会 21日 BCP説明会 21日 企業説明会(ポリテクセンタータイアップ事業) 28日 鉄骨製作管理技術者講習会(～29日)	

(B)

都道府県	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率(%)	③ 見積物件の傾向			④ 工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～13	3～5	1～3	80～100		○				
石川県	6～12	2～7	1～2	90～100		○				
福井県	5～12	2～6	1～2	80～120		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	Hグレードは、忙しい状態が続いており稼働率が100%を超えているファブが少なくない。M・Rグレードは、物件も増えてきて稼働率も80%を超えており、見通しは少し良くなってきている。全グレードで、鋼材の値上がりを始めとし、副資材費、運送費、電気料金等の値上がり分が受注価格に転嫁出来ておらず、経営に関わることであり、真剣に対処していかなければならない。
石川県	企業間に差はあるものの各グレードとも稼働率は良く、年内の仕事は確保している模様。鋼材や副資材の手配難と、図面の決定の遅延の影響により工程に苦慮している様子。コロナの影響もまだまだあり、感染や濃厚接触による影響で人手不足なども懸念される場所ではあるが、うまく組合員同士が協力し合っていると思う。鋼材価格の高騰により公共物件では入札の不調、民間物件では計画の見直しなどが出ているが、正確な見積りをみんなが提示することで理解が得られていくように思う。
福井県	・上位グレードの山積みは民間工事を中心に依然として高く、1年以上確保しているところもあって各工場とも高い稼働率を維持している。 ・しかし主要鋼材ならびに副資材の高騰が治まらない中、受注額への完全転嫁は未だ困難を極めている。 ・さらにコロナ禍は治まり傾向を見せている感はあるが、従業員家族の感染や濃厚接触による人員配置への影響は依然としてあって、今後の感染再拡大への不安は残っている。 ・材料等の高騰について設計サイドへの働きかけは今後也不可欠である。各地方で独自の働きかけだけに留まらず、設計サイドの中央組織へも一層の働きかけを希望する。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2022年（令和4年） 10月分

(A)

提出日 令和4年11月1日

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	6日(木) 全青会・北陸ブロック 第2回役員会 11日(火) 組合員と賛助会員との懇親交流会 12日(水) 青年部会・10月度役員会	6日(木) 第2回全構協青年部会北陸ブロック役員会 (富山県) 13日(木) 全構協第2回技術委員会(東京)
石川県	14日(金) 第6回青年部役員会 18日(火) 賛助会員との交流懇親会 22日(土) 鉄骨製作管理技術者学科試験(金沢)	
福井県	6日 認定工場品質サポート(1工場) 13日 定例三役会、役員会 19日 認定部会役員会、周年事業実行委員会、例会 20日 企業説明会(ポリテクセンタータイアップ事業) 23日 青年部会 青年中央会まつり出展 25日 性能評価工場審査(1工場)	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～11	3～5	2～3	80～110		○				
石川県	6～12	2～7	1～2	90～100		○				
福井県	5～12	2～6	1～2	80～120		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	炭酸ガス、溶接ワイヤー、塗料などの値上がりが厳しく、中には10%を超える物もある。特に電気料金、輸送費については、どれだけ上昇するか見当がつかず、見積が大変やりづらい。鉄骨単価は多少上昇しているが、加工費は実質下降している。仕事は多少増えつつあるが、量を追わず加工単価を重視して、受注していかなくてはならない。
石川県	年内は各グレードも稼働率も良好であるが来年度になると大型物件はあるものの200t～500tの物件が減少する傾向にあると思われる。鋼材の高騰により予想以上の価格に物件自体が延期となることもある様子。副資材の価格の上昇により加工費も副資材費に加わるため圧迫されている。加工費の値上げは難しいと思われる。行政も価格や納期についてもある程度は理解もあるがまだまだ好調とは言えない。今後とも価格に大幅な変動が起きないように組合員同士正確な情報交換していかねばならない。
福井県	<ul style="list-style-type: none"> ・前月(9月)に比し上位グレード工場では、稼働率、山積み共に高いままで大きな変化は見られない。 ・県内公共工事において、低設計価格の故にGCが応札せず不調となる物件が多く見られる。 ・主要鋼材価格の高止まりと現場職工の人手不足・人件費高騰が、北陸新幹線延伸関連工事の工期延期を招いている。 ・冬期を前にRJグレードでは手薄感があって、低価格受注に走りそうな雰囲気があるが、適正価格の維持のために今一度組合員同士での団結を図る時期に来ている。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 9月分

(A)

提出日 2022年(令和4年)10月3日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等	
岐阜県	20日(火) 29日(木)	理事会 性能評価申請説明会	1日(木) 2日(金)	全構協:運営委員会 出席 全構協:共済推進担当者 連絡会議 出席
静岡県	28日(水)	役員会	7日(水) 16日(金)	中部支部会 青年部中部ブロック会議
愛知県	20日(火) 29日(木) 30日(金)	H部会 性能評価申請説明会 青年部会 西三河支部会	20日(火) 29日(木)	全構協:三役会 出席 全構協:理事会 出席
三重県	8日(木) 13日(火) 14日(水) 21日(水)	三重県議会「新生みえ」団体懇談会 超音波探傷レベル1学科試験対策講習会 第5回理事会、創立50周年準備委員会 青年部会		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3~10	3~7	2~7	60 ~ 130		○				
静岡県	8~12	3~8	1~7	80 ~ 120		○				
愛知県	10~17	5~8	1~3	80 ~ 140		○				
三重県	12~17	2~6	1.5~4	94 ~ 125		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・社内クラスターが発生している企業も見受けられ、稼働率を上げざるを得ない状況。 ・コロナ感染者、濃厚接触者等で、工場の流れが変わってしまう。 ・加工費が上がってきているので次月より聞き取り金額を1万円上げます。 ・電力会社でない新電力との契約企業は電気代の高騰により苦慮されている。 ・図面承認の遅れで、工場に空きが出来てしまう。 ・年内は堅調でほぼ手一杯です。 ・鋼材価格の上昇もひと段落で、少し落ち着いた感があります。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・Hグレードは大型物件がある程度まで決まっているようだが、Mグレード以下の中小型物件が少なく思う。物価高で設備投資ができない中小企業が多いからだと思う。 ・一年先以上の案件の話が良く出るが、鋼材費の変動を予測して契約までいかない。地場コンの動きが活発になってきていると感じている。 ・7~8月に見積が減少しているので、秋から冬にかけての地場案件が少ないように思う。また、仕入れ価格が1年の間に何回も上がり加工費が圧迫されている。早く価格安定してもらいたい。 ・小規模の梁加工なのに製作期間は約30日間かかった。しかも受取金額は思いのほか低金額だった。次回の物件は、同時に小・中規模物件が1件ずつあるようなので、前回足りなかった分を取り返す予定だ。来月からワイヤー・ガス類が最大50円/k上がるようだ。また厳しくなると思う。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼材単価の値上がり分の転嫁はある程度できるようになってきた。今後は鋼材以外の光熱費・副資材など固定費の様々なコストアップを把握して受注単価に反映させる事が課題。 ・工事量は来年一杯まで関東、愛知県内も多いという情報が入ってきている。 ・来年の山積みも入ってきているが、周辺状況はかなり不透明な感じになってきているので不安である。 ・年内の仕事は何とか確保できている状況だが、年明けからの物件はまだ見えてこない。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・自社案件は少ないようである。愛知県のファブの応援が目立つ。やり手の無かった案件が売れている。 ・2022年は忙しい状況が続いていくが、2023年、新規見積りの引き合いも無く厳しい状況となると予想される。 一方、直近半年以上先まで手持ち工事を確保しているファブもありますが、材料等の値上げの動向に不安を抱いている方が多いようです。 ・材料費等の値上げが止まらない。指値も厳しい状況である。背に腹は代えられないといった所も出て来ている。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 10月分

提出日 2022年(令和4年)11月 1日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況		
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等		
岐阜県	20 日 (木)	理事会	4 日 (火)	} 鉄骨製作管理技術者 受験準備講習会	
静岡県	17 日 (月) 26 日 (水) 28 日 (金)	BCP講習会 静岡県中央会大会 出席 三役会	5 日 (水) 13 日 (木) 18 日 (火)		全構協 技術委員会 出席 全構協 三役会 出席
愛知県	4 日 (火) 11 日 (火) 25 日 (火) 26 日 (水)	BCP講習会 講師打ち合わせ ZOOM 正副理事長会・理事会 事業継続計画(BCP)講習会 ZOOM 青年部会			
三重県	7 日 (金) 24 日 (月) 28 日 (金)	後期性能評価事前説明会 3社 第6回理事会・創立50周年準備委員会 青年部工場見学会			

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3~12	2.5~7	1~6	90 ~ 120		○				
静岡県	8~10	3~6	1~6	80 ~ 120		○				
愛知県	10~13	2~12	2~3	90 ~ 150			○			
三重県	10~14	3~6	2~4	100 ~ 120		○				

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・各社内での感染状況は少なくなってきた状況。 ・工場で溶接ヒューム濃度測定が半数ほど未実施であったため、早急に対応されるように促した。 ・見積もりを提出して着手した後に、積みあがった金額を削るための設計変更がくるため、段取り通り進まず、工程が狂ってしまう。 ・年内は各社共山積みあり。 ・一次加工品の納期がかかるため、加工納期に影響。 ・工場の遅れが多く、工程を立て辛い。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から値上げラッシュになるので、当分はコスト削減に努めなければならないと思われる。 ・一時的か分らないが、周りの加工先がかなり忙しくなっている。県内はあまり物件が出ていないようなので、首都圏物件のHグレード応援か？ ・来年の中小物件の量はわからない。材料高、見積が少なく来年の見通しは悪い。 ・中型物件の梁加工の依頼が来ている。 ・動いているが、先行きは不透明。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・1~2年先まで工事数はありそうですが、加工賃、消耗品費など上げれる雰囲気はありません。 ・しばらくは100%の受注は控えて余裕をもった山積みをする予定。 ・来年は不景気局面に入るようです。 ・現在、予定済みの大型物件は引き続き顕著に動きそうですが、小規模物件は厳しくなりそうです。 ・小規模物件の見積もりがほとんど無く、来年以降の状況は良くない。 ・鋼材価格は落ち着いてきたように思う。 ・昨年度、見積案件は材料費の値上がりで価格に転嫁しきれず、今期は厳しい。 ・超高層ビル案件が多く動いている。 ・材料費については高止まりしていると思いましたが、ここに来てHTBが一割ほど値上げ要求がきています。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・大型案件(1000tクラス)は出ているようだが、100t~500tクラスが少ない。中には300tで来年1月建て方という案件も聞こえて来ているが(関東案件)これからの施工図、材料発注となると請け手が無いと思われる。 ・今後も仕事量が多くなっていく傾向が予測されていますので、早目に材料の確保と契約はギリギリまで待った方が良くないかと思われます。 ・そろそろ材料の値上げ前の物件が終わってきたかと思えます。安値物件を断り、価格上昇のためにも最低価格の目標を共有したい。

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年9月分)

提出日 令和4年10月6日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・9/7 性能評価申請説明会 3社 ・9/20 事業継続計画「BCP作成」説明会、理事会、認定工場部会 ・9/24, 28 講習会準備当番 ・9/30 けんせつみらいフェスタ説明会出席 	≪第2回近畿支部会≫ 9月9日(金) 14:00 ~ 16:00 キャンパスプラザ京都 ≪講習会≫ ・鉄骨製作管理技術者 講習会 2級 : 9/26 ~ 9/27 1級 : 9/28 ~ 9/29 (大阪トヨペットビル)
京都府	<ul style="list-style-type: none"> ・9/14 性能評価説明会 ・9/28 インボイス制度研修会 ・9/28 50周年事業準備委員会 	
大阪府	9/1 第2回運営共済事業委員会、9/9 東大阪支部会、 9/14第2回技術委員会、9/21市内支部会、北大阪支部会	
兵庫県		
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・9/22 青年部会定例会、9/26 三役会・BCP説明会・理事会、 ・9/30 入熱・パス間温度管理講習 	
和歌山県		

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
滋賀県	8 ~ 14	3 ~ 8	1 ~ 4	70 ~ 100		○				
京都府	10 ~ 12	8 ~ 12	1 ~ 6	20 ~ 120		○				
大阪府	6 ~ 12	1 ~ 4	1 ~ 3	60 ~ 100			○			
兵庫県	10 ~ 18	4 ~ 8	2 ~ 4	80 ~ 100		○				
奈良県	~	4 ~ 5	1 ~ 4	70 ~ 100		○				
和歌山県	7 ~ 15	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	価格の交渉は各社とも難航している。発注タイミングを先読みした鋼材費の明示と値上がりする消耗品・副資材など考慮した加工費にて粘り強く交渉する必要がある。またインボイス制度登録など各社着々と進んでいるが塗装工や溶接工に関する外部専門職の方々について事業所により対応が変わってくるので今後も意見交換を進めていきたいと考える。
京都府	副資材高騰が影響して見積価格が上昇してしまい工事が決まりにくい。大型物件の案件が非常に多く1年先までは仕事が決まっている。副資材高騰による単価の転嫁が出来ないので先の仕事には単価をあげて見積している。年明け2月迄は受注しているがその先は見えない。雑金物工事の短期期引合いが多い。来年の夏以降の動きがあまりよくなさそうです。
大阪府	大型物件や大規模な再開発など来年、再来年にかけて物件が出ている中で、中小規模の物件も動きが出てきている模様だが、物件数が少ない。ただ、鋼材や副資材、溶材等の値上げはピークを迎えておらず、加工費は値下げ基調で、不安は続くようです。
兵庫県	大型物件に携わるファブはおおむね計画通りに山積みが推移していますが、図面の遅れ等により影響が出ているファブもあります。一方、民間案件中心の中小ファブは見積り及びまとまった案件が少なく山積みの標準化が安定していない。また原材料費や燃料費、輸送費等の高騰が懸念される状況かと思えます。鋼材については、大型物件の影響でロールが年内タイトな状況が続き、H型鋼の一次加工及びBH型鋼も納期がかかるため新規物件引き合い時には注意が必要である。
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・今は忙しいものの、グレード(M)に合う量の物件(500t前後)が、少ないようにも思えます。 ・年内～来年初め頃までは物件数も多く、来年は引き続いて物件数が多いと聞いている状況です。 ・材料の価格が上昇する反面、加工費がなかなか上がらない状況が続いています。
和歌山県	鋼材価格は現在、高止まりの状態ですが、10月からの物価の値上げにより、鋼材価格も上がってくる可能性があります。大型物件は、多いようですが、中小物件は、少ないように思います。この物価高騰の影響か?見積物件も少なくなってきました。このような状況で、物件の交渉は、より慎重に行っていかなければならないと考えています。粘り強く交渉を！

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年 10月分)

(A)

提出日 令和4年11月7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	・10/12 認定工場部会 ・10/19 青年部会 ・10/19, 21事務局面接 ・10/29 滋賀けんせつみらいフェスタ 2022出展(青年部会)	≪試 験≫ ・製作管理技術者 試験 10月22日(土)
京都府	・10/28 理事会 四役会 50周年事業準備委員会	
大阪府	10/3 後期性能評価審査説明会、10/5 第27回OTKゴルフ大会、 10/6 全構協関東支部運営委員会との合同交流会、10/11 南大阪 支部会、10/19 第3回定例理事会、10/27 北大阪支部会、10/31 工 場審査(中間)1件	
兵庫県	・10/3 四役会 ・10/5 運営委員会 ・10/6 令和4年後期性能評価説明会 ・10/7 教育技術委員会	
奈良県	・10/5 後期性能評価合同説明会 ・10/27 三役会	
和歌山県	・10/3 近代化委員会 ・10/3 性能評価申請 勉強会	

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
滋賀県	8 ~ 14	3 ~ 8	1 ~ 4	80 ~ 100		○				
京都府	5 ~ 12	2 ~ 8	1 ~ 5	80 ~ 120		○				
大阪府	6 ~ 12	2 ~ 4	1 ~ 3	60 ~ 100			○			
兵庫県	10 ~ 18	4 ~ 8	1 ~ 3	80 ~ 100		○				
奈良県	~	3 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 100		○				
和歌山県	6 ~ 14	2 ~ 5	1 ~ 3	50 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	形鋼類の急激な高騰は穏やかに緩やかな上昇状態。PL類は各社様相は異なるが見積もり価格設定は以前よりも易くなった。その他のベースや貫通補強品・消耗品・溶材・塗料など今後の値上がり告知され価格交渉の際は十分に考慮する必要がある。また建て替え費用の負担が大幅に上昇している事をうけ、基本契約は現金が望ましいが受取手形がある場合はサイト見直しの進言などを部会の際に行っている。指値価格は以前にも増して厳しくなっているが購入品価格の高騰に歩調を合わせる交渉の必要が有る。
京都府	全般的に工事稼働、山積が高く、図面、一次加工が逼迫し鋼材納期による影響が年内続きそうです。鋼材は高止まりしているが関連副資材の値上がりが続いている。加工費は上げられない状態ではある。しばらく中小規模の物件の見積りが止まっていたがようやく増えてきた。来年の夏頃の物件の見積が多い。来年春以降で大型案件の引合いが2件ある。商社との競合により不透明。年内は仕事量は多く年明けも続き9月ぐらいまでは確保できている。しかし、見積物件の工事延期などがあり工事が決まりにくい。動いている物件は単価が安く年末年始が不安。という声もある。
大阪府	来年から再来年にかけて物件が動き出しているようで、そろそろ万博関連の話も出てきそう。そんな中でも、歴史的な円安と物価高が進んでおり、同じ規模で同じ内容の仕事をしていても、結果が何か違ってくる。バタバタ貧乏は避けたいものである。グレートによって来年の見積物件は決して多くない。流通からの物件は安い指値で、外注したら赤字になるが、納期不足の為、納期を守るには梁加工等を外注せざるを得ない状況である。
兵庫県	Hグレードファブは受注残を多く抱えています。中小物件は鋼材を含む原材料、燃料、人件費などの高騰を理由に、工期遅れや計画そのものがなくなった事例もある他、中小ファブは受注残を積み上げていない。鋼材はスクラップ価格が値下がりし高炉原料価格との差が広がる中、H型鋼やコラムなどでは電炉との価格差が出ていて、鉄鉱石や石炭など主原料は一時期と比べ落ち着いていましたが、為替影響等もあり高値推移している状況です。
奈良県	・各社が、多忙な状態であるような気がするも、鋼材の一次加工と納期が延びていて、心配です。 ・年内ならびに年明けまで忙しく感じるも、それから先の話しがあまり無いような気がします。 ・他のFABさんからの状況報告も、年内～年明けまでは仕事量が沢山あると、上がって来ています。
和歌山県	今月の副資材や溶材関係の値上げが予想以上に大きく、鋼材価格も高止まりの状態、その上物件数も十分出ないので、加工費への価格転嫁も難しく厳しい状況が続いています。大型物件は、来年、再来年の物件が出ているようですが、中小物件の動きが鈍いように思われます。来年の春以降の動きが心配です。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 9月分

(A) 提出日 2022年(令和4年) 10月12日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中国支部活動・行事等	
鳥取県	9日(金) 16日(金) 17日(土)	東部支部合同例会 第15回鳥根県・鳥取県交流会(松江市) 鳥根県・鳥取県 交流ゴルフコンペ(出雲市)	1日(木) 2日(金)	全構協:運営委員会(東京) 全構協:共済推進担当者会議 (zoom)
島根県	16日(金) 17日(土)	第15回鳥取県鉄構工業会・島根県鐵構工業会交流会 (松江市 ホテル白鳥) 鳥取県・島根県 交流ゴルフコンペ (出雲市 しまねゴルフ倶楽部)	29日(木)	全構協:第6回理事会 全構協:賛助会員企業・団体との 懇談会(東京)
岡山県	14日(水)	(一社)岡山県建築士会創立記念ゴルフコンペ	30日(金)	全構協:第2回人材育成委員会 (東京)
広島県	5日(火) 10,11日 30日(金)	組合50周年記念事業特別委員会(ZOOM) 鉄骨製作管理技術者 受験講習会 溶接従事者向け技術セミナー(三和鉄構建設機工場)		
山口県	14日(水)	青年部役員会		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	4 ~ 12	3 ~ 7	1 ~ 2	80 ~ 150		○				
島根県	7 ~ 8	3 ~ 6	1 ~ 2	70 ~ 100			○			
岡山県	12 ~ 16	1.5 ~ 8	2 ~ 10	90 ~ 100			○			
広島県	13 ~ 18	3 ~ 9	2 ~ 7	50 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 8	2 ~ 4	1 ~ 3	70 ~ 110		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	Hグレード各社は来年秋口まで7割の予定を組んでいて高稼働率のようだが、受注単価は平行線で企業努力で対応策を講じている。鋼材の高単価・調達難はピークを越えた感じたが、各メーカー今後の動向を注視しながら受注計画する必要性が伺われる。地元案件の発注量は年明けから年度末にかけて物件が少なく、今後の予定計画工事に期待しているMグレード各社が我慢して奮闘中の様子である。またHグレードの各工場資格の更新AW検定・ロボットオペレーター資格更新時期になっている。
島根県	Hグレードは、年末から年明けの物件が多く、その後の案件が見えず春先の加工量に対し不安感が募る状況となっている。Mグレードも、年内の仕事量は確保出来ているが、年明け以降について先行き不安感が募る状況である。Rグレード以下の下位グレードについては、今しばらくの仕事量は確保出来ているが、先行きに関しては不透明で上位グレード次第といった状況である。鋼材価格も強含み横這いで、受注活動が難しい状況に変わりは無く厳しい状況が続く見通しである。
岡山県	第三四半期に入り公共工事の発注時期となるが、地方は相変わらず低調である。それに加えて地方で発注される工事については官民間問わず値崩れが発生している。材料価格の高騰と相まってMグレード以下の工場にとっては試練の時となりつつある。安い仕事は受けない、価格競争はしないという気持ちが必要だが、この状況はそれを許さないレベルとなりつつある。何か良い打開策が必要であるが、今は打つ手が無いのが実情である。
広島県	稼働率は、100%以上の回答企業が70%、80%未満の低稼働の報告は1社のみで、引続き繁忙状態。手持ち工事では、Hグレードはいずれも1年以上の仕事を抱える一方、Rグレードを中心に4か月以下の割合が約60%で、格差は依然大きい。見積りに関しては、「少ない」が50%、「普通」が40%で、「多い」の回答が10%あるものの、先月よりやや悪化傾向。仕事は確保するが、材料価格上昇による加工賃圧迫、少ない小規模物件をめぐるGCの競争激化など、利益減少を懸念する声が多く聞かれる。また、物件の過剰なグレード指定を行う設計事務所に対し、正しい理解を促す働きかけを強く望む声(特にR)があがっている。
山口県	Hグレードでは先月同様、他社応援等を含めて75~90%の稼働率である。来月は自社物件が複数重なり稼働率アップに期待したい。見積物件は変動なく通常通りとなっている。M・Rグレードでは小口や改修等の小規模物件が多いが、現状忙しなく年内はかつがつ埋まりそうと話すファブもある。ただ、工場に空きができるため同業他社の仕事をもらうなど組合員同士の連絡で稼働率を確保している様子。年末~年明けに向けて忙しくなる時期だが、地域によっては中型物件の予定が数件あるなど先の物件が決まり少し明るい見通しと話す一方で全ての業種の工事費・資材が高騰しており公共・民間ともに入札不調や設計見直しが増えてきて新規案件の成約が厳しくなっており先行き不透明で受注確保を不安視していると話すファブもある。材料については、塗料・消耗品が20%程価格上昇とのことで加工コストにかなり影響がでると思われる。鋼材以外の物価スライドを取り決める際、直ぐに反映してくれると良いがそれもなかなか難しく不安要素が増すばかりである。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 10月分

(A)

提出日 2022年(令和4年) 11月7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中国支部活動・行事等
鳥取県	7日(金) 東部支部例会	4日(火) 鉄骨技術者教育センター: 社長の右腕育成講習会検討WG (東京) 11日(火) 第4回中国支部会 (岡山市) 13日(木) 全構協:技術委員会 (東京) 31日(月) 全構協:教育体系検討WG(東京)
島根県	12日(水) 工場審査説明会(益田市) 18日(火) 役員会、BCP講習会(出雲市)	
岡山県	20日(木) 第3回理事会(岡山市) 29日(土) 岡山県建築士会建築フェス(イオン岡山)	
広島県	12日(水) 組合 三役会・理事会 24日(月) 令和4年度後期工場審査勉強会 28日(金) 県中小企業団体中央会理事会 7日(金) 工場審査サポート 1件 27日(木) 工場審査 1件	
山口県	18日(火) 三役会 20日(木) (後期)性能評価事前説明会 20日(木) 第4回理事会	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	4 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 2	80 ~ 150			○			
島根県	7 ~ 8	2 ~ 4	1 ~ 2	80 ~ 100			○			
岡山県	12 ~ 15	2 ~ 8	2 ~ 3	70 ~ 100			○			
広島県	7 ~ 8	2 ~ 8	1 ~ 6	80 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 7	2 ~ 4	2 ~ 3	75 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	県内物件の設計・工事発注は官民ともに低迷している為、Hグレードファブを中心に県外物件(工場・物流倉庫・病院・免震構造等)など大手商社・ゼネコンから依頼を受けているが、加工費は平行線で厳しいコストダウンを迫られてきた様子。Mグレードファブにおいても県外大型物件の依頼を受け、ファブ同士の連携を取りながら受注対応していく必要性が高くなってきている。各メーカーの原材料・副資材などの生産コスト高を踏まえた、コスト高の転嫁に取組む事を重点事項とした突破口を模索中である。
島根県	Hグレードは、年末から年明けの仕事量は確保できており、来年度については、県外の大型案件の間合せが来ているため期待の持てる状況となりつつある。Mグレードは、年内の仕事量は確保出来ているが、年明け以降については先行き不透明な状況に変わりはない。Rグレード以下の下位グレードについては、今しばらくの仕事量は確保出来ているが、先行きに関しては不透明で上位グレード次第といった状況である。また、客先の鋼材価格上昇への理解は進んで来てはいるものの、塗料、溶剤など副資材や輸送費の上昇については価格転嫁が進まず厳しい状況が続いている。
岡山県	年末に向かって本来であれば繁忙になる時期と思われるが、都心部を顧客とするHグレード以外は厳しい受注環境にある。純粋に鉄骨工事を 行う会社にとっては厳しい冬であり、ここ数年傷んだ財務を安値受注により厳しい状況に追い込む可能性がある。工場稼働率を上げる事は 工場経営にとって大事な事ではあるがここは今一歩我慢が必要ではないかと考える。全構協としてこの現況に対して何らかのアクションがあってもいいのではないかと考える。
広島県	稼働率は、100%以上の回答企業が80% (うち1/4が100%超)、80%未満の低稼働の報告はなく、かなりの繁忙状態。手持ち工事では、Mグレード以上はほぼ5か月以上の仕事を抱える一方、Rグレードを中心に2か月以下の割合が1/3で、格差は依然大きい。見積りについては、M以上は「普通」と「多い」の回答のみ、一方、R以下では「少ない」が80%を占め、小規模物件が薄い傾向が窺える。各社とも当面の仕事は忙しいが、将来見通しではM以上は楽観的だが、R以下は悲観的で、明暗がはっきり分かれている。製作原価の上昇による利益減少を懸念する声は多いが、十分な鉄骨需要を念頭に置き、結束して利益の出る選択受注を行っていきたい。
山口県	Hグレードでは図面決定の遅れで思うように加工が伸びず、先月より稼働率が15%程低下しており今後の影響を懸念している。見積りは先月と比べてほぼ変わらないものの若干少なくなっている。M・Rグレードでは小規模工事や改修工事の現場仕事が多くなっており、年内～年明け頃まで各社忙しい様子。今後も見積り依頼がそれなりにあり期待していると話すファブもいる。しかし、資材高騰による工事費アップのため工事案件の決定に遅れが出たり、中止・延期になるケースも散見され「相変わらず見積物件が少ない」「先行き不透明」との声も多く聞かれる。消耗品等の値上げでコスト管理が一層厳しくなっており、仕事の確保と利益確保で難しい判断を下すことに不安を感じている。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 9月分

(A) 提出日 令和4年10月17日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	5日(月)AW検定対策実習 10日(土)AW検定 13日(火)第6回情報交換会・理事会	◇四国支部会 日時:9月15日(木) 場所:香川県宇多津町ホテルアネックス瀬戸大橋 議事:全構協各委員会報告 支部交流会(高知開催)について 各県状況報告 ◇鉄骨製作管理技術者講習会(1,2級) 日時:9月15日(木)～16日(金) 場所:香川県宇多津町ホテルアネックス瀬戸大橋 以上
香川県	5日(月)西讃支部会 15日～16日鉄骨製作管理技術者講習会 29日(木)高松支部会	
愛媛県	22日(木)理事会	
高知県	29日(木)理事会	

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	1 ~ 9	~ 3	1 ~ 3	90 ~ 100			○			
香川県	4 ~ 10	3 ~ 4	~	90 ~ 100			○			
愛媛県	4 ~ 16	3 ~ 5	2 ~ 5	90 ~ 110			○			
高知県	5 ~	1 ~ 5	1 ~ 3	80 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	県内物件は相変わらず少ない状況が続いている。溶材、副資材の値上がりの中、加工単価も上げなければいけません。見積時に要確認、要注意が必要。
香川県	県内案件は少なくプラン見積りが多いが、県外物件受注でFABの格差はあるものの全体としてはバランスが一定程度とれており工場稼働率は高い。また、鋼材・副資材等の上昇分は価格転嫁ができていないのが現状であるが、加工単価については若干アップしているとの声も聞かれる。
愛媛県	稼働率は手持工事量の積み上げで県内各社グレードに関係なく操業時間内ほぼ100%で、年内一杯は残業が続く工場が多い。手持工事量はHグレードで2か月前の報告から更に増えてきているが、県内地場、中小物件が受注の中心のR・Mグレードの手持工事量はさほど増えていない。来年以降の県内物件の冷え込みが心配される。
高知県	見積は少ない状況が続いているが稼働率は高い状態が続いており年末位まではほぼ全社確保している。また来年以降の仕事もMグレードではある程度確保している。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年)10月分

(A)

提出日 令和4年11月7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	18日(火)第7回情報交換会	◇四国支部交流会 並びに支部共済推進会議 日時:10月26日(水) 場所:高知市 ザ・クラウンパレス高知新阪急 議事:全構協理事会、各委員会報告 各県状況報告 支部共済推進会議 懇親会 出席:63名(内、共済協力会社12名) 以上
香川県	10日(月)中讃支部会 12日(水)第4回理事会 12日(水)BCP検討会	
愛媛県	29日(土)青年部例会 30日(日)組合協賛店合同ゴルフコンペ	
高知県	28日(金)ハイスキップ構法講習会	

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	4 ~ 8	2 ~ 5	~ 2	80 ~ 100			○			
香川県	4 ~ 10	3 ~ 5	~	90 ~ 110			○			
愛媛県	4 ~ 16	2 ~ 5	1 ~ 4	90 ~ 110			○			
高知県	5 ~	2 ~ 6	1 ~ 2	80 ~ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	県内物件は、相変わらず見積・仕事量の少ない状況が続いており、仕事確保が重要課題となる。加工単価も含めて先行き不安。
香川県	先月同様、県内の設計およびゼネコン共に見積り件数は少ない。ただし、簡単なプラン見積り件数は多くあるが実施案件まで進んでいない。従って、商社、県外FABの加工しているところが多く受注格差はあるものの、県内外の協力により一定程度のバランスが取れており工場稼働率は90%~110%と高い。しかし、鋼材などの高騰分が転嫁できていない声が多く聞かれる。
愛媛県	先月同様、稼働率は県内各社操業時間内ほぼ100%である。また、H・Mグレードでは2H程度の残業が続く工場が多い。但し、この先を占う見積では、今の時点で県内では100トン以上の物件が少ない。また、今まで県内受注の大部分を占めていた松山周辺の中規模以上の物件見積も少なく、県内物件が中心のR・Mグレードでは来年度当初の受注量に影響が出るかもしれない。
高知県	見積は小口物件はそこそこあるが全体的に少ない、大型物件がもう少し出て欲しい。価格は鋼材価格の値上がりに対するある程度転嫁できているが充分な額ではない。

＜九州支部＞ 状況報告書

2022年度(令和4年度) 9月分

(A) 提出日 令和 4年 10月 3日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	九州支部活動・行事等
福岡県	・9/14 性能評価後期申請説明会(対面) ・9/26 技術委員会(WEB) 9/29 経営対策委員会(対面)	・9/9 第4回支部事務局WEB会議
佐賀県	9/22 定例理事会 インボイス制度講習会 9/27 品質・安全パトロール	
長崎県	9/5 50周年記念事業委員会打ち合わせ、9/7 鉄骨研究会第1回HP立ち上げ作業部会出席、9/16 建専協第1回理事会出席、9/17 長崎県溶接技術競技会参加、9/20 臨時理事会、9/21 理事会・例会、9/22 鉄骨研究会第1回技術研修会出席、9/27 50周年記念事業委員会	
熊本県	9/13 認定サポート部会 9/14 理事会・定例会 9/16 REAL4講習会(青年部会)	
大分県	9/12超音波探傷走査(Gタイプ)指導 9/16三役会、フィットテスト(定性法・定量法)概略実演説明会、理事会、全員協議会 9/29令和5年度後期認定申請者用説明会(WEB開催)	
宮崎県	9/3 自民党政経セミナー参加 9/27 青年部会第3回幹事会	
鹿児島県	9/26建築専門業団体と建築協会との協議会 9/27青年部会役員会(Web) 9/28青年部会WEB座談会	
沖縄県	・9/6:定例理事会、7日:技能講習会、16日:インボイス制度講習会、27日:性能評価申請工場支援	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	4 ~ 12	3 ~ 5	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	2 ~ 6	1 ~ 3	70~100		○				
長崎県	8 ~ 12	3 ~ 7	—	60~100		○				
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	2 ~ 3	93.8			○			
大分県	7 ~ 14	3 ~ 8	—	90~100		○				
宮崎県	10 ~ 12	1 ~ 6	0.5 ~ 3	75~100		○				
鹿児島県	8~12	1~8	1~2	60~100			○			
沖縄県	1 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 2	70~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・大型物件の仕事量はあるが、小規模物件の数が少ない。
佐賀県	・中小案件が少ない。他社の製作協力で工場に空きが出ないようにしている。 ・鋼材、副資材、輸送費等の高騰により、加工費が圧迫されて利益が確保出来ない状況。
長崎県	・見積り件数若干停滞している。鋼材価格は高止まり状態ですが価格交渉も可能になってきた。 ・新たな見積りや引合物件は出てきた。但し価格は年内は交渉が厳しい。年明け物件は予算もよくなりそう。 ・企業間同士の協力会社への価格提示が、後回しになっているので、着工前の交渉を望みたい。
熊本県	材料が高止まりしている。価格転嫁がなかなか出来ない。 商社の動きが顕著になっている。 見積り物件が少ない。
大分県	◎大型物件が非常に今年と来年にかけて増えている。何もかも値上げして単価に影響がある。図面に決まりが以前よりも悪くなっている。◎物件数は増えた。G.Cの指値が厳しい。◎引合は多い。顧客のニーズに応えられるよう生産性向上に努めたい。
宮崎県	・秋に入り全体的に手持ち工事量が増加。Hグレードを中心に山積みの平準化に取り組んでいる。 ・鋼材・副資材の高止まりに加え、円安による物価上昇で、利益が圧迫されている。
鹿児島県	中小案件の見積りが少ない。物価上昇の影響を受ける物件が散見され、来年夏以降の工事がかなり見込まれているが、影響は不可避かと思われる。材料入荷遅れで作業工程がなかなか予定通りに進みません。
沖縄県	・中小物件の引合いが少ない。予定していた案件が工事中止になるなど先行きは不透明。

＜ 九州支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年度(令和4年度) 10月分

(A)

提出日 令和 4年 11月 2日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	九州支部活動・行事等
福岡県	10/12 理事会、全体会議 10/17 福岡県建築鉄骨協議会運営委員会 10/21 青年部役員会(WEB) 10/24 技術委員会打合せ(WEB)	・10/4～6 鉄骨製作管理技術者(1・2級)講習会 ・10/18 第6回九州支部事務局WEB会議 ・10/27 第4回支部理事会、九州支部・H部会・商社との懇談会
佐賀県	10/14 後期工場審査の説明 10/21 11、12月に実施する講習会の打合せ	
長崎県	10/5 鉄骨研究会・HP立ち上げ作業部会出席、10/13 50周年記念事業委員会、総務・経営対策委員会、10/18 50周年記念事業委員会、10/21 創立50周年記念式典・祝賀会、10/26 鉄骨研究会・専門委員会出席	
熊本県	10/11 理事会 10/24 入熱パス間の勉強会 10/28 鉄骨問題協議会	
大分県	10/14 共同受注委員会、青年部役員会、青年部・賛助会懇親会 10/25 工場審査打ち合わせ	
宮崎県	10/6 過積載防止対策推進会議出席 10/7 中央会研修会(インボイス制度)参加 10/11 三役会議・第3回理事会開催 10/14 鹿児島県鉄構工業会との交流会(ゴルフコンペ・懇親会) 10/25 中央会研修会(事業承継)参加	
鹿児島県	10/7 全体会議(インボイス説明会) 10/14 宮崎県鉄構工業会との交流会 10/21 青年部会・JSCA鹿児島との合同勉強会	
沖縄県	・10/8 溶接競技大会、13日:産業衛生大会、17日:定例理事会、21日:長崎県創立50周年式典・祝賀会、	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	4 ~ 12	3 ~ 5	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	1 ~ 6	1 ~ 3	80~100			○			
長崎県	8 ~ 14	3 ~ 7	—	60~100		○				
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	2 ~ 3	93.5			○			
大分県	8 ~ 12	3 ~ 6	—	90~100		○				
宮崎県	7 ~ 12	1 ~ 3	1 ~ 3	70~110			○			
鹿児島県	7~12	1~7	1~2	40~100			○			
沖縄県	1 ~ 3	1 ~ 2	1 ~ 2	60~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・鋼材の価格は高値で安定しつつあるが、消耗品・人件費・電気代等の全てにおいて値上がりしている状況。
佐賀県	・現在、仕事量はある程度確保しているが、来年春以降の物件の話が少なく先が不透明。 ・新規物件の見積りが少ない。今後の工事量に影響が出るもよう。
長崎県	・見積り件数が若干停滞している。鋼材価格は高止まり、薄板部材の値上げが止まっていない。 ・新たな見積りや引合物件が出てきた。但し、価格は年内は交渉が厳しい。年明け物件は予算もよくなりそう。 ・企業間同士の協力会社への価格提示が後回しになっているので、着工前の交渉を望みたい。状況は9月とほぼ変わらない。
熊本県	材料が高止まりしている。価格転嫁がなかなか出来ない。 商社の動きが顕著になっている。見積り物件が少ない。
大分県	◎大型物件が増えてきた。◎鋼材以外の資材の値上がり幅が大きいため見積り時注意している。
宮崎県	・中小物件が少なく、R・Mグレードでは手持ち工事量にバラツキが見られる。 ・昨年の同時期に比べHグレードの手持ち工事量が増えている。単価については商社介入等により厳しい状況が続いている。
鹿児島県	価格の変動や納期に気を付けながらの見積り、受注がまだまだ続きそうです。手持ちや空きが発生した時はお互いに連絡を取り合って仕事の融通をしましょう。
沖縄県	・各社仕事の山積みにはバラツキがあり稼働率も低い。引合い物件は少ない。

全構協・青年部 意見交換会 議事次第

(一社)全国鐵構工業協会

場所: 鉄鋼会館 801室

日時: 2022年11月16日(水)

13:00~16:00

1. 全構協 永井会長挨拶

2. 出席者ご紹介 (名簿)

3. 意見交換会

(1) 全構協 事業概況 説明

- ① 喫緊の課題、推進事業(課題・テーマ) (特別委員会、常設委員会)
- ② 2022年度事業計画、事業実施状況

(2) 青年部の活動状況報告

- ① 青年部の活動状況
- ② 青年部活動を実施して行く上での課題・悩み
- ③ 青年部から全構協への要請事項、その他

(3) 意見交換

- ① 今後の人材育成に関する課題
- ② 業界の発展に向けて今後、自ら、取り組みたい課題など

◎ 懇親会

- ・時間 : 16:00 ~ 17:00 (予定)
- ・場所 : 鉄鋼会館 701 号室

以上

全構協・青年部 意見交換会(懇親会) 出席者名簿 (全構協)

2022年11月16日

組 織 / 役 職			(支部)	氏 名 (敬称略)	意見 交換会	懇親会	備 考
全構協	三 役	会 長		永 井 毅	出	出	
		副会長		大 島 嗣 雄	出	出	
		副会長		大 竹 良 明	出	出	
		相談役		米 森 昭 夫	出	出	
	理 事	支部長	北海道	佐 藤 正 記	出	出	
		〃	東 北	三 浦 隆 宏	欠	欠	
		〃	関 東	秋 山 順 一	出	出	
		〃	北 陸	寺 田 健 信	出	出	
		〃	中 部	柏 原 正 明	出	出	
		〃	近 畿	出 雲 津 芳	出	欠	
		〃	中 国	妹 尾 一 人	出	欠	
		〃	四 国	登 尾 昌 弘	出	出	
	事務局	専務理事		小 貫 武	出	出	
総務部長			平 井 直 樹	出	出		
技術部長			新 村 洋 行	出	出		
総務部部長			中 村 秀 和	出	出		
総務部部長			大 原 弘 光	出	出		
総務課長			滝 本 英 二	出	出		
					18	16	

全構協・青年部 意見交換会(懇親会) 出席者名簿 (青年部)

都道府県	氏名	会社名	グレード	役職	意見交換会	懇親会
北海道	北川 亮	(株)北川組鉄工所	H	代表取締役専務	○	○
青森県	菅岡 哲郎	(株)三輪鉄建	M	副社長	欠席	欠席
岩手県	加賀谷 浩一	(株)カガヤ	H	代表取締役	○	○
宮城県	中辻 淳	正和工業(株)	H	代表取締役	○	欠席
秋田県	小野寺 呂典	(株)ユーホク	H	常務取締役兼工場長	欠席	欠席
山形県	布施 拓也	布施建設(株)	M	専務取締役	欠席	欠席
福島県	祓川 英之	(株)郡山鉄工所	M	代表取締役	○	○
茨城県	加藤 康彦	加藤鉄工建設	未	代表	○	欠席
栃木県	石原 秀紀	(株)イシハラ	M	代表取締役	○	○
群馬県	小池 和敏	(株)小池鉄工	M	代表取締役	○	○
埼玉県	新井 公太	(株)アラコウ	H	代表取締役	○	○
千葉県	杉本 龍生	(株)杉本製作所	M	代表取締役	○	○
東京都	池田 和隆	池田鉄工(株)	M	代表取締役	○	○
神奈川	鈴木 昭典	佐原工業(株)	R	専務取締役	○	○
新潟県	古川 勇人	(株)古川廣吉鉄工所	M	代表取締役	○	○
山梨県	鈴木 誠	(有)鈴木鉄工所	M	専務取締役	○	欠席
長野県	長岡 拓馬	長岡鉄工(株)	H	専務取締役	○	○
富山県	西村 大仁郎	中越鉄工(株)	H	代表取締役社長	○	○
石川県	東 正和	マルト鉄工(株)	R	代表取締役社長	○	○
福井県	本田 学	(株)加藤製罐	M	取締役部長	○	○
岐阜県	多和田 靖也	(株)カジケイ鉄工	H	代表取締役	○	○
静岡県	白井 基之	(株)ウエハラ	M	代表取締役	欠席	欠席
愛知県	鈴木 亮	エスエスケイ(株)	R	代表取締役	○	○
三重県	松岡 勝美	(株)マツオカ鉄工	M	専務取締役	○	○
滋賀県	前田 祐一	前田工業(株)	R	代表取締役	○	欠席
京都府	森本 真生	(株)森本工業所	M	代表取締役社長	欠席	欠席
大阪府	吉川 智寛	(株)吉川工業	未	代表取締役	○	○
兵庫県	横矢 尚之	和以貴建設(株)	M	工場長	欠席	欠席
奈良県	水野 壮平	水野鉄工(株)	M	工務部長	○	○
和歌山	横田 敏郎	(有)横田工作所	M	代表取締役	○	○
鳥取県	倭島 考史	(有)和島鉄工所	M	専務取締役	欠席	欠席
島根県	勝部 聡士	出雲鉄工(株)	M	取締役営業部長	○	○
岡山県	浜場 光介	(有)勝己鉄工所	R	専務取締役	○	欠席
広島県	遠藤 健太	遠藤工業(株)	H	専務取締役	○	○
山口県	藤澤 敦祐	(株)フジサワ鐵工	R	代表取締役社長	○	○
徳島県	杉友 伸康	大伸工業(有)	R	代表取締役	○	○
香川県	金井 宏文	金井工業(株)	M	代表取締役	○	○
愛媛県	上田 政志	(株)林鐵工所	H	代表取締役	欠席	欠席
高知県	岡村 康一	(有)岡村鉄工	R	代表取締役	○	○
福岡県	堤 倫亮(副会長)	(株)堤鉄構	M	代表取締役	○	○
佐賀県	古賀 伸忠	(有)古賀機械	R	代表取締役	○	欠席
長崎県	武田 政彦	(有)武田鉄骨	M	専務取締役	○	欠席
熊本県	郡野 淳	(株)郡野鉄建	M	代表取締役社長	○	○
大分県	大鍛治 洋介	中之島鉄工(株)	M	常務取締役	○	○
宮崎県	阿萬 祐典	(有)戸敷興業	M	専務取締役	○	○
鹿児島	入木田 智聡	(有)入木田鐵工	H	専務取締役	○	○
沖縄県	知花 昂幸	上門工業(株)	M	鉄工部長	欠席	欠席
全青会	高田 知明	北栄興業(株)	H	代表取締役社長	○	○
					39 人	32 人

2022 年度 会員企業 業績調査集計結果について

1.【業績関係】

2020 年初頭から続くコロナ禍による影響が続く中、赤字業績の企業が増加している。赤字企業(営業利益)の比率は、全体の 22%と前回調査時から 5%増加した。

また現時点の経営上の課題については、前回調査に引き続き「鋼材他価格の上昇」の回答数が一番多く、全体の 21.2%を占めており、昨今の物価高の影響があると思われる。

2.【女性従業員(女性活躍)の状況】

平均従業員数の男女比率、ならびに女性の職種別の構成比については前回調査から大きな変化は見られないが、「設計・図面・積算」の構成比が前回調査時から上がっている。(23.7%→27.2%)

3.【法定福利費】

「全物件に見積計上している」と回答している企業は、前回から若干増加している。(前回 52.9%→今回 53.7%)

「法定福利費を含んで契約した」と回答している企業については、構成比は前回から減少しているが(前回 79.0%→今回 76.8%)、回答数自体は前回から増加している。(前回 687 社→今回 720 社)

一方、契約された工事の二次以下の現場下請企業への法定福利費対応(支払い)については、グレードが上がるのと比例して高くなる傾向は継続している。

4.【働き方改革】

月 20 時間以上の残業をしている企業の比率は近年減少傾向にあったが、今回は増加に転じた。近年のコロナ禍による影響を受けている可能性がある。(事業の再開等)

一方、月間平均休日取得日数については日数増の傾向は継続しており、「月間 6 日以上」と回答している企業の割合は若干増加している(前回 68.8%→今回 69.7%)

以上

2022年度 会員企業業績調査(2021年度分)集計結果について

1. 調査の概要

- 1) 調査対象 構成員工場 2,224社(一部組合加入会社を含む)
 2) 調査期間 2021年7月14日(月)～7月29日(金)
 3) 有効回答企業数

	S/H	M	R	J	未認定	計
調査対象数(社)	290	823	605	44	462	2,224
調査票回答数(社)	211	510	307	18	123	1,169
調査票回答率(%)	72.8	62.0	50.7	40.9	26.6	52.6

2. 調査結果の概要

設問1

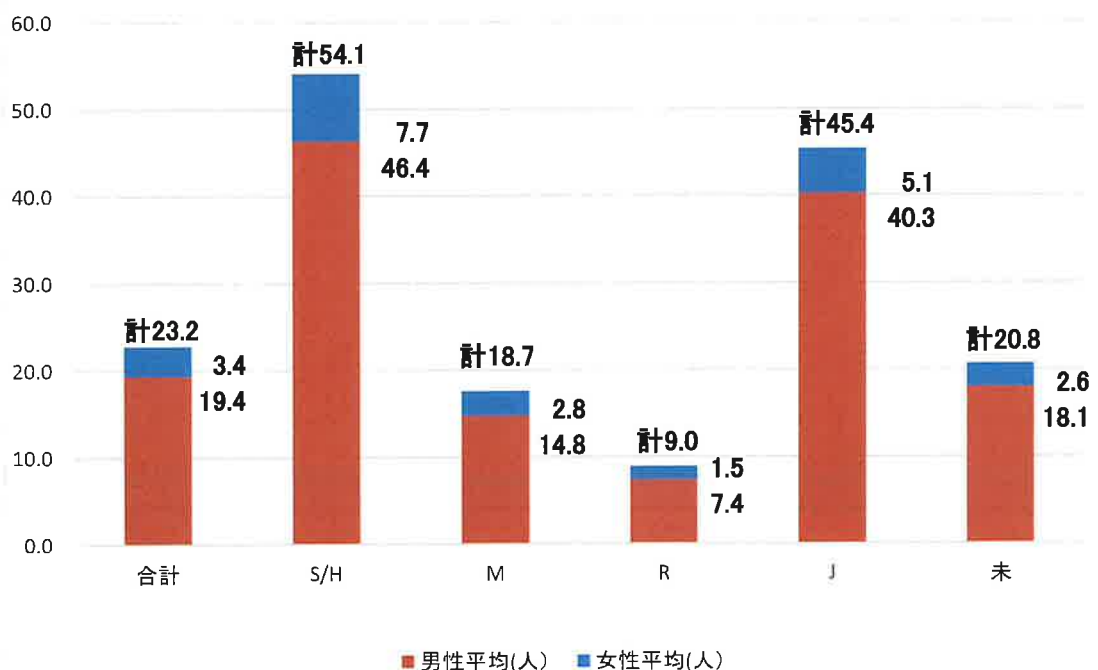
女性従業員の担当している業務についてお尋ねします。
 女性従業員の内訳を()内に記入して下さい。(鉄骨事業対象)

<調査結果のポイント>

前回調査と比べ、男女それぞれの平均人数は若干下がっているが、女性比率に大きな変更はない。
 また職種別についても、有効回答数の増加もあって「設計・図面・積算」の比率が上がっているが、基本的に前回から大きな変動は見られない。

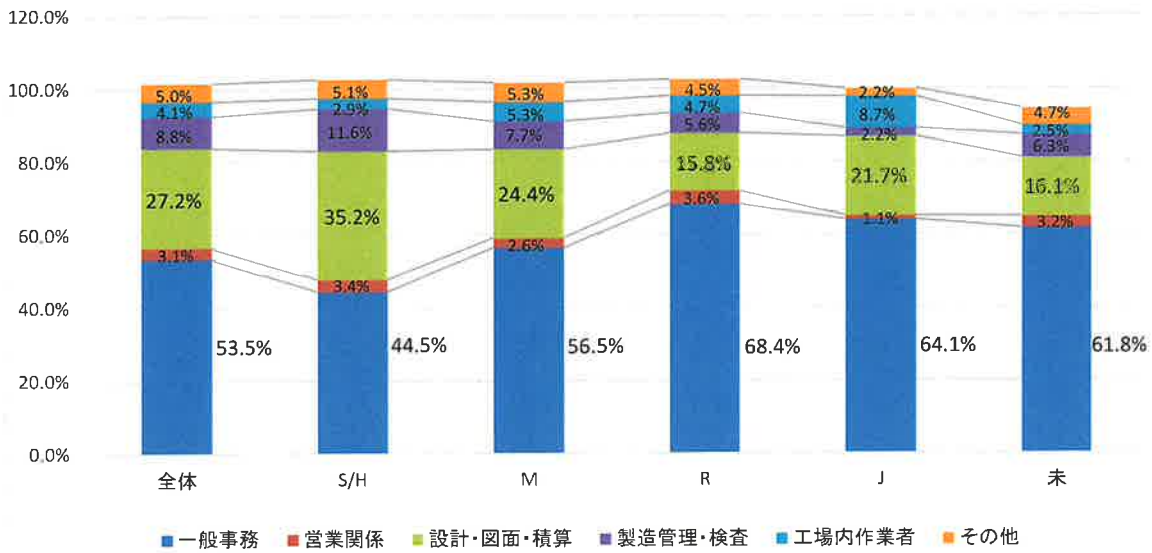
グレード別男女平均従業員数

有効回答数:1,165 社
 (単位:人)



	合計	S/H	M	R	J	未
女性平均(人)	3.4	7.7	2.8	1.5	5.1	2.6
男性平均(人)	19.4	46.4	14.8	7.4	40.3	18.1
全体平均(人)	23.2	54.1	18.7	9.0	45.4	20.8
企業数(社)	1,165	213	507	306	18	121

グレード別女性の職種割合



	全体	S/H	M	R	J	未
一般事務	53.5%	44.5%	56.5%	68.4%	64.1%	61.8%
営業関係	3.1%	3.4%	2.6%	3.6%	1.1%	3.2%
設計・図面・積算	27.2%	35.2%	24.4%	15.8%	21.7%	16.1%
製造管理・検査	8.8%	11.6%	7.7%	5.6%	2.2%	6.3%
工場内作業	4.1%	2.9%	5.3%	4.7%	8.7%	2.5%
その他	5.0%	5.1%	5.3%	4.5%	2.2%	4.7%

業績調査(従業員人数)その2

	グレード					合計
	S/H	M	R	J	未	
企業数 (回答)	213	507	306	18	121	1,165

従業員数	全体(人)	11,529	9,461	2,762	818	2,512	27,082
	平均(人/社)	54.1	18.7	9.0	45.4	20.8	23.2
	男性(人)	9,893	7,526	2,277	726	2,195	22,617
	平均(人/社)	46.4	14.8	7.4	40.3	18.1	19.4
	女性(人)	1,637	1,408	468	92	317	3,922
	平均(人/社)	7.7	2.8	1.5	5.1	2.6	3.4
	女性比率(%)	14.2%	14.9%	16.9%	11.2%	12.6%	14.5%

女性 職種別	一般事務	729	795	320	59	196	2,099
	<構成比(%)>	44.5%	56.5%	68.4%	64.1%	61.8%	53.5%
	営業関係	56	37	17	1	10	121
	<構成比(%)>	3.4%	2.6%	3.6%	1.1%	3.2%	3.1%
	設計・図面・積算	577	343	74	20	51	1,065
	<構成比(%)>	35.2%	24.4%	15.8%	21.7%	16.1%	27.2%
	製造管理・検査	190	108	26	2	20	346
	<構成比(%)>	11.6%	7.7%	5.6%	2.2%	6.3%	8.8%
工事・現場作業	48	75	22	8	8	161	
<構成比(%)>	2.9%	5.3%	4.7%	8.7%	2.5%	4.1%	
その他職種	83	74	21	2	15	195	
<構成比(%)>	5.1%	5.3%	4.5%	2.2%	4.7%	5.0%	
合計	1,683	1,432	480	92	300	3,987	
<構成比(%)>	103%	102%	103%	100%	95%	102%	

設問2

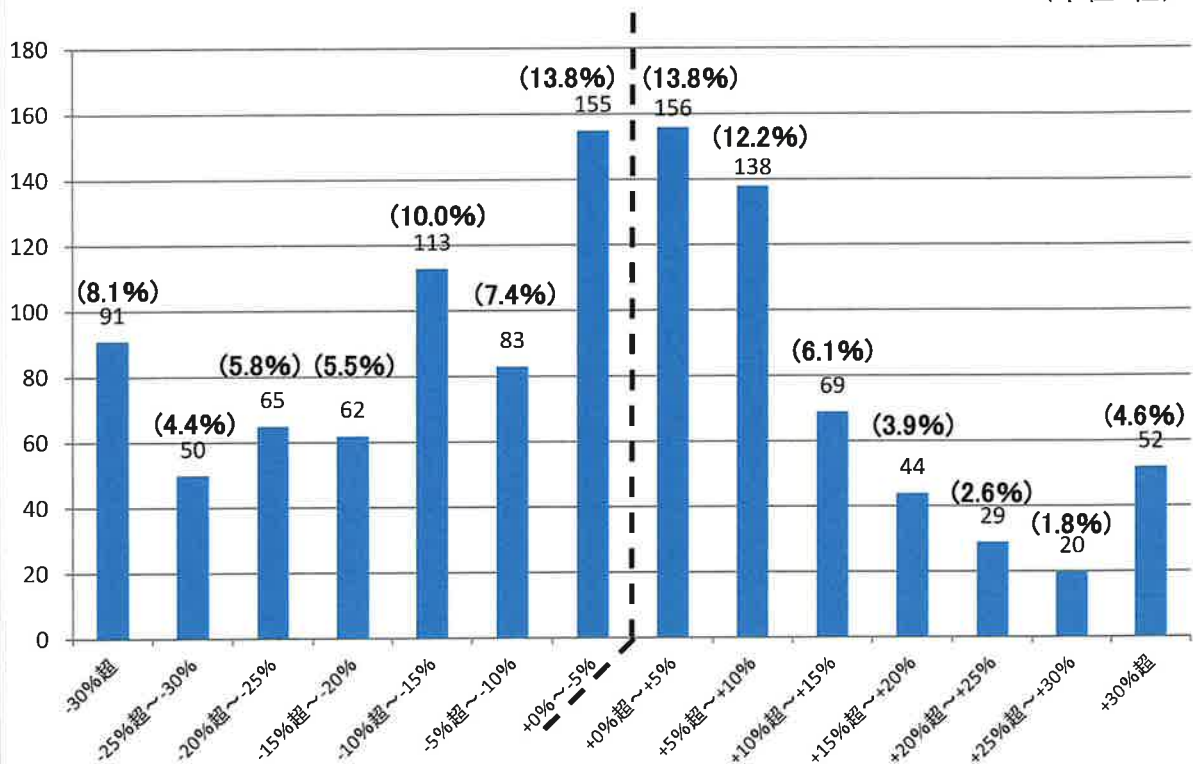
**貴社の完成売上トン数の対前年比(2020年度比)をお答えください。
(鉄骨事業対象)**

<調査結果のポイント>

売上トン数が「売上増」の企業の割合は、45.1%(508社)となっており、
前回調査(2020年度)と比較すると、「売上増」の企業は増加している。
※前々回49.7%→前回32.8%→今回45.1%

設問2. 前年(2020年度)対比の完成売上げトン数

有効回答数: 1,127社
(単位: 社)

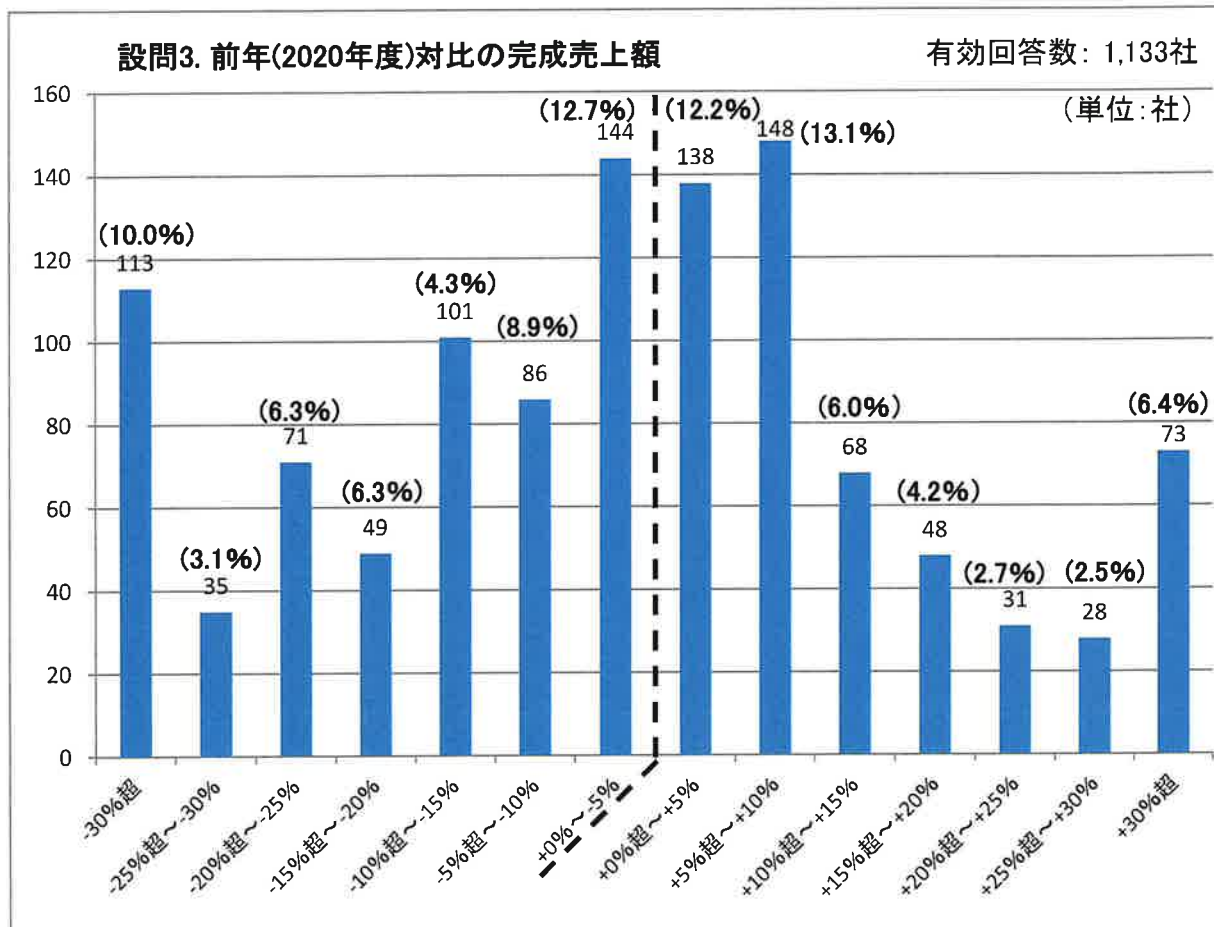


設問3

貴社の完成売上額の対前年比(2020年度比)をお答えください。
(鉄骨事業対象)

<調査結果のポイント>

完成売上額が増加した企業の割合は、47.1%(534社)となっており、
売上トン数同様、こちらも前回調査(2020年度)と比較すると、「売上増」の企業は増加している。
※前々回51.9%→前回34.4%→今回47.1%



設問4

貴社の直近の決算状況についてお尋ねします。(鉄骨事業対象)
4-(1) 損益計算書(P/L)の売上総利益(粗利益)をお答え下さい。

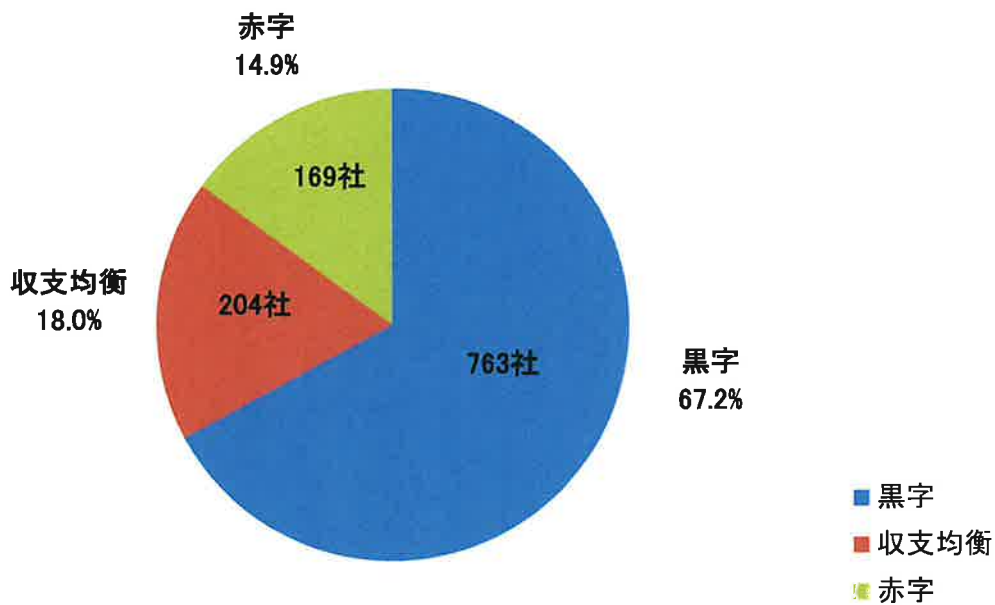
<調査結果のポイント>

前回調査と比べ、若干ではあるが
「黒字」(前回68.8%→今回67.2%)、「収支均衡」(前回19.2%→今回18.0%)の企業は減少し、
「赤字」の企業が増加している(前回12.1%→今回14.9%)
※率は下がったが、黒字と回答した企業数は有効回答数が増えたこともあり、増加している。
(前回729社→今回763社) 赤字(企業数)についても同様(前回128社→今回169社)

設問4-(1) 損益計算書の売上総利益(粗利益)

有効回答数:1,136社

S/H 212、M 501、R 298、J 18、未 107



※設問4のグレード別分析、地域別分析は別紙 I 参照

	S/H		M		R		J		未		計
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	
黒字	184	86.8%	346	69.1%	163	54.7%	13	72.2%	57	53.3%	763 67.2%
収支均衡	15	7.1%	85	17.0%	75	25.2%	2	11.1%	27	25.2%	204 18.0%
赤字	13	6.1%	70	14.0%	60	20.1%	3	16.7%	23	21.5%	169 14.9%
合計	212	100.0%	501	100.0%	298	100.0%	18	100.0%	107	100.0%	1,136

設問4

貴社の直近の決算状況についてお尋ねします。(鉄骨事業対象)
4-(2) 決算書の損益計算書(P/L)の営業利益をお答え下さい。

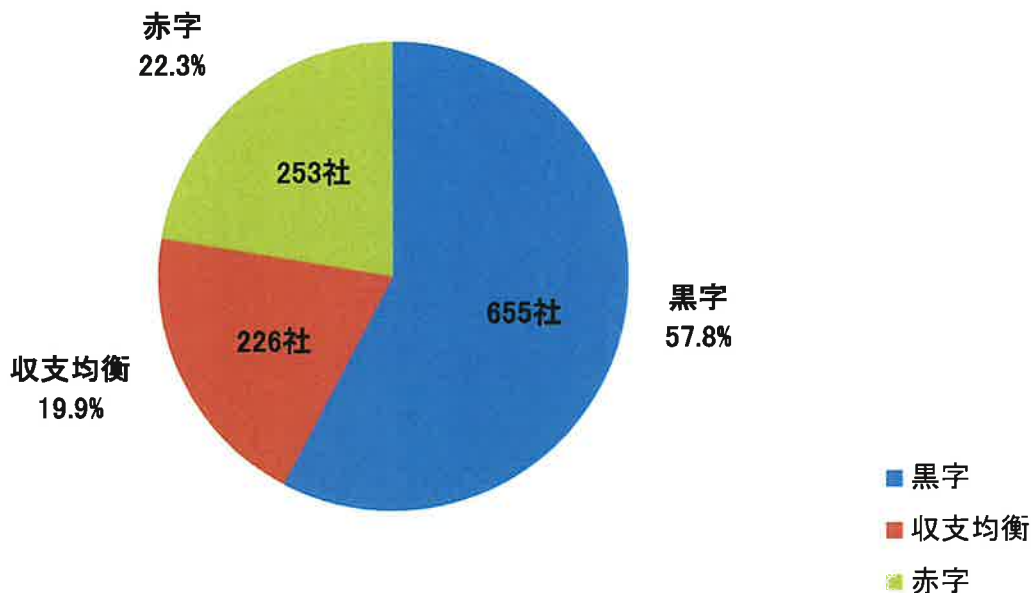
<調査結果のポイント>

前回調査と比べ、「黒字」の企業は減少し(前回62.9%→今回57.8%)、「赤字」の企業は増加した(前回17.2%→今回22.3%)
※「収支均衡」は前回と同率
有効回答数が前回より増加した影響があると考えられるが、M・Rグレードに関しては、黒字企業数の減少、赤字企業数の増加が大きく見える。(前回黒字:M/315社・R/145社)(前回赤字:M/75社・R/64社)

設問4-(2) 損益計算書の営業利益

有効回答数: 1,134社

S/H 211、M 501、R 297、J 18、未 107



※設問4のグレード別分析、地域別分析は別紙 I 参照

	S/H		M		R		J		未		計
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	
黒字	171	81.0%	293	58.5%	130	43.8%	12	66.7%	49	45.8%	655 57.8%
収支均衡	23	10.9%	92	18.4%	83	27.9%	2	11.1%	26	24.3%	226 19.9%
赤字	17	8.1%	116	23.2%	84	28.3%	4	22.2%	32	29.9%	253 22.3%
合計	211	100.0%	501	100.0%	297	100.0%	18	100.0%	107	100.0%	1,134

グレード別決算状況 (未認定含む)

2022 S/H213 M507 R306 J18 未121 合計1,165/2,224
2021 S/H185 M478 R295 J14 未114 合計1,086/2,259

□売上総利益(粗利益)

グレード	黒字		収支均衡		赤字	
	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査
	S/H	90%	(▲3%) 87%	7%	(±0%) 7%	3%
M	72%	(▲3%) 69%	18%	(▲1%) 17%	10%	(+4%) 14%
R	57%	(▲2%) 55%	26%	(▲1%) 25%	17%	(+3%) 20%
J	57%	(+15%) 72%	7%	(+4%) 11%	36%	(▲19%) 17%
未認定	50%	(+3%) 53%	30%	(▲5%) 25%	20%	(+2%) 22%
総平均	69%	(▲2%) 67%	19%	(▲1%) 18%	12%	(+3%) 15%

□営業利益

グレード	黒字		収支均衡		赤字	
	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査
	S/H	85%	(▲4%) 81%	8%	(+3%) 11%	7%
M	67%	(▲9%) 58%	17%	(+1%) 18%	16%	(+8%) 24%
R	50%	(▲6%) 44%	28%	(±0%) 28%	22%	(+6%) 28%
J	57%	(+10%) 67%	7%	(+4%) 11%	36%	(▲14%) 22%
未認定	43%	(▲3%) 46%	30%	(▲6%) 24%	27%	(+3%) 30%
総平均	63%	(▲5%) 58%	20%	(±0%) 20%	17%	(+5%) 22%

※()内は、2021年調査との比較

地区別売上総利益(粗利益)状況(未認定含む)

	黒字		収支均衡				赤字	
	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査
北海道	77%	(▲6%) 71%	15%	(+11%) 26%	8%	(▲5%) 3%	8%	(▲5%) 3%
東北	70%	(+10%) 80%	16%	(▲6%) 10%	14%	(▲4%) 10%	14%	(▲4%) 10%
関東	63%	(+2%) 65%	23%	(▲9%) 14%	14%	(+7%) 21%	14%	(+7%) 21%
北陸	76%	(▲2%) 74%	13%	(+4%) 17%	11%	(▲2%) 9%	11%	(▲2%) 9%
中部	65%	(▲4%) 61%	20%	(▲1%) 19%	15%	(+5%) 20%	15%	(+5%) 20%
近畿	69%	(▲2%) 67%	22%	(+1%) 23%	9%	(+1%) 10%	9%	(+1%) 10%
中国	71%	(▲2%) 69%	19%	(▲3%) 16%	10%	(+5%) 15%	10%	(+5%) 15%
四国	74%	(▲13%) 61%	18%	(+14%) 32%	8%	(▲1%) 7%	8%	(▲1%) 7%
九州	73%	(▲6%) 67%	16%	(+2%) 18%	11%	(+4%) 15%	11%	(+4%) 15%
全国平均	69%	(▲2%) 67%	19%	(▲1%) 18%	12%	(+3%) 15%	12%	(+3%) 15%

※()内は、2021年調査との比較

地区別営業利益状況 (未認定含む)

	黒字		収支均衡		赤字	
	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査	2021調査	2022調査
		(▲17%)	20%	(+13%)	5%	(+3%)
北海道	75%	59%	20%	33%	5%	8%
東北	61%	63%	17%	13%	22%	24%
関東	57%	57%	22%	16%	21%	27%
北陸	69%	60%	16%	19%	15%	21%
中部	60%	52%	21%	20%	19%	28%
近畿	67%	61%	23%	23%	10%	16%
中国	63%	50%	18%	20%	19%	30%
四国	70%	56%	15%	32%	15%	12%
九州	66%	61%	18%	21%	16%	18%
全国平均	63%	58%	20%	20%	17%	22%

※()内は、2021年調査との比較

設問5

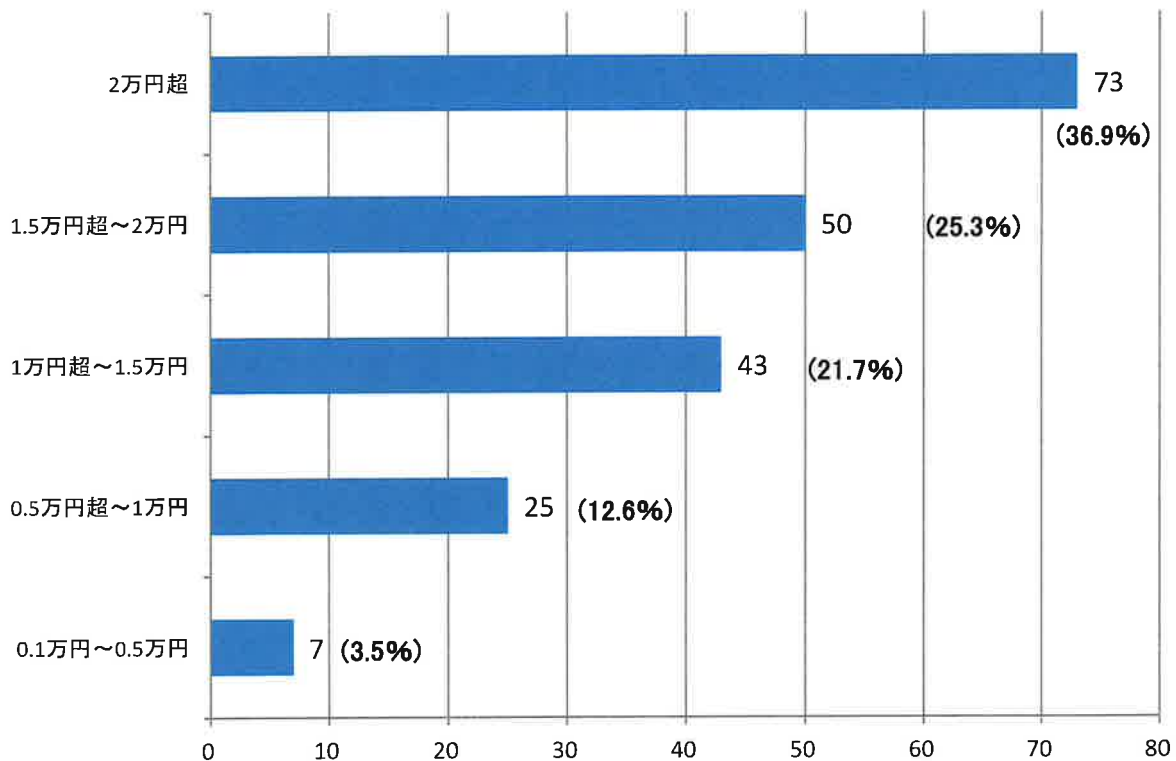
設問4で「③赤字」と回答された方にお尋ねします。
 5-(1) 設問4-(1)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対し採算ベース(粗利益ベース)にはあといくら位の受注価格(トン当たり)の上積みが必要ですか。

<調査結果のポイント>

2万円超(前回28.2%→今回36.9%)
 1.5万円超～2万円(前回28.2%→今回25.3%)
 1万円超～1.5万円(前回27.4%→今回21.7%)
 0.5万円超～1万円(前回13.7%→今回12.6%)
 0.1万円～0.5万円(前回2.4%→今回3.5%)

前回調査では、1万円超から2万円超の回答数はほぼ均衡していたが、今回は特に2万円超(の回答数)が抜き出した結果となった。
 ※有効回答数は前回の1.6倍となっている(2万円超と回答した企業数は前回の2倍となった)

設問5-(1) 設問4-(1)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対して 有効回答数：198社
 採算ベースにはあとどれくらい必要か。 (単位：社)



設問5

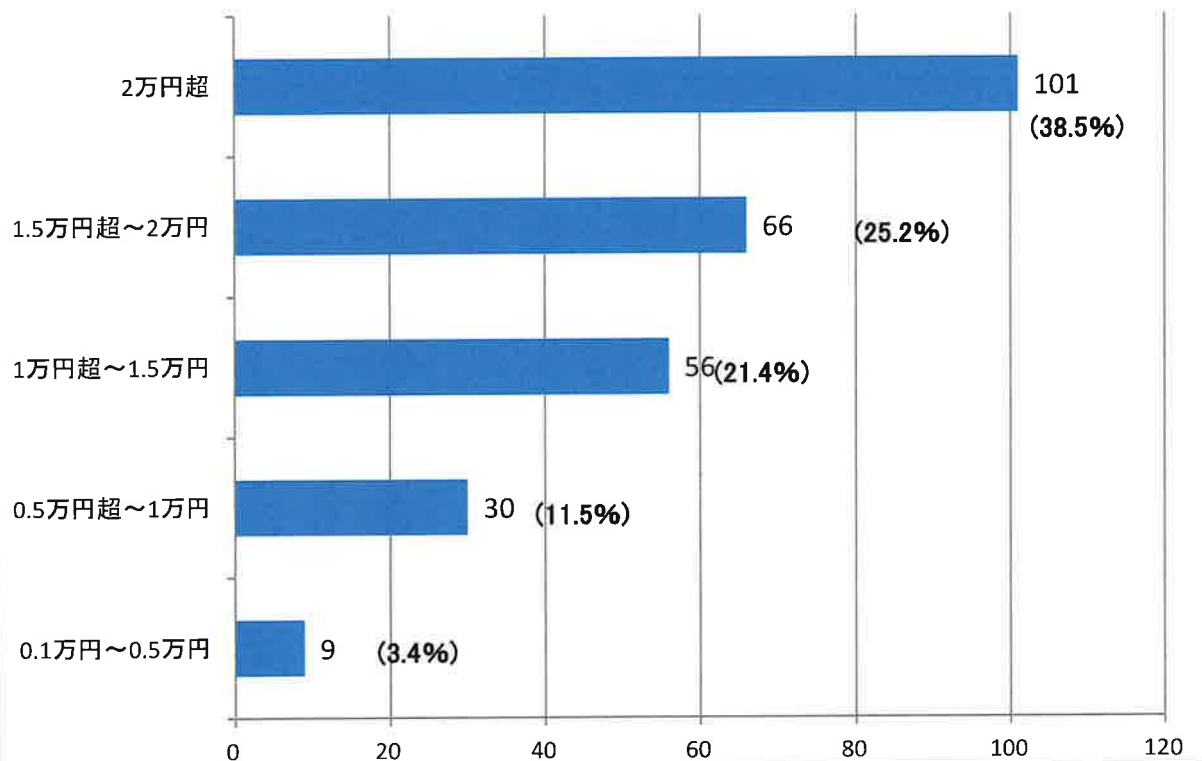
設問4で「③赤字」と回答された方にお尋ねします。
 5-(2) 設問4-(2)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対し採算ベース(営業利益ベース)にはあといくら位の受注価格(トン当たり)の上積みが必要ですか。

<調査結果のポイント>

2万円超(前回24.0%→今回38.5%)
 1.5万円超～2万円(前回25.1%→今回25.2%)
 1万円超～1.5万円(前回31.4%→今回21.4%)
 0.5万円超～1万円(前回12.0%→今回11.5%)
 0.1万円～0.5万円(前回7.4%→今回3.4%)

こちらは粗利益ベースと比べ、前回調査では1万円超～1.5万円の回答が一番多かったが、今回は2万円超という回答が圧倒的に多い結果となった。
 ※有効回答数は前回の1.5倍となっている(2万円超と回答した企業数は前回の2.4倍)

設問5-(2) 設問4-(2)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対して 有効回答数: 262社
 採算ベースにはあとどれくらい必要か。 (単位: 社)



設問6

貴社の前年比(2020年度比)の決算状況についてお尋ねします。
6-(1) 前年比(2020年度比)の売上総利益(粗利益)をお答え下さい。

<調査結果のポイント>

粗利益が「改善」と回答した企業(下記グラフ:点線より右エリア)の割合は、前回と比べ若干増加した。

※「改善」41.9%(前回40.7%)、「悪化」58.0%(前回59.3%)

前回の調査結果とは逆の現象が起きているため、

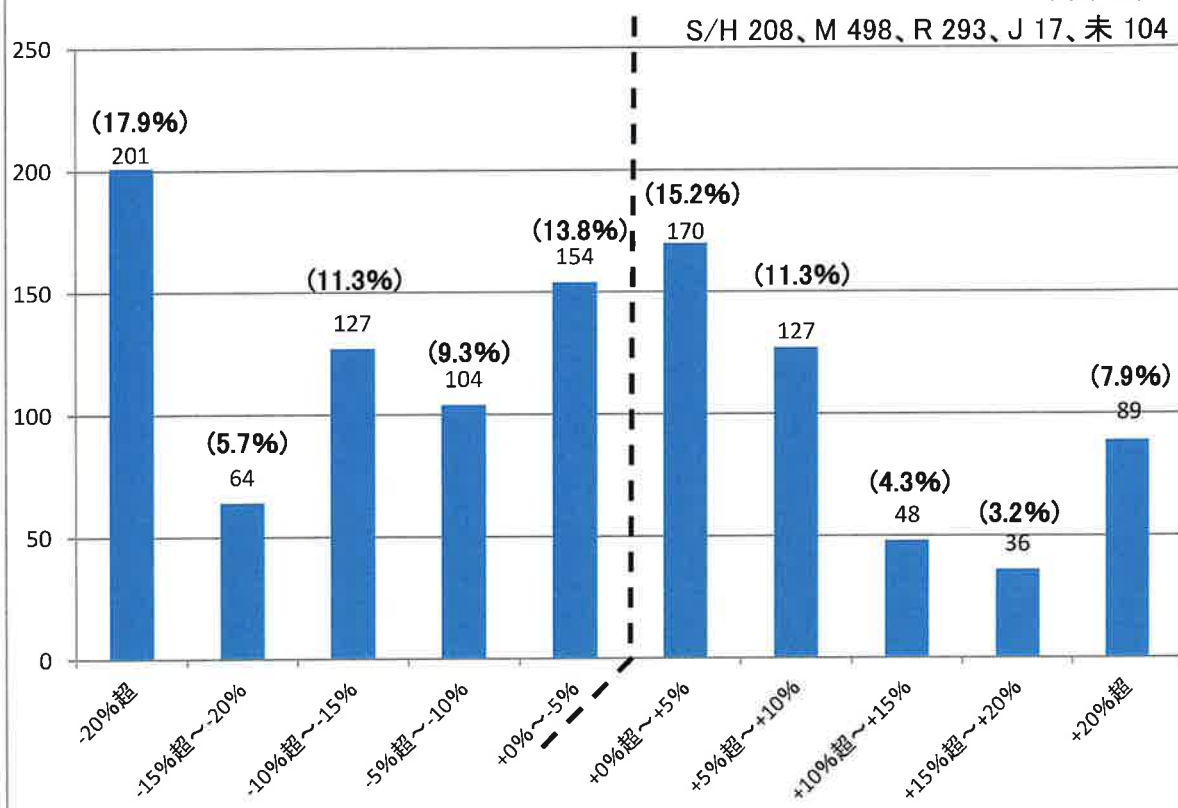
決算状況は昨年からは(コロナ禍による影響含め)改善傾向にあると考えられる。

※前回「改善」は59.2%→40.7%に減少、「悪化」は40.8%→59.3%に増加

設問6-(1) 前年(2020年度)対比の売上総利益(粗利益)

有効回答数: 1,120社

(単位:社)



設問6

貴社の前年比(2020年度比)の決算状況についてお尋ねします。
6-(2) 前年比(2020年度比)の営業利益をお答え下さい。

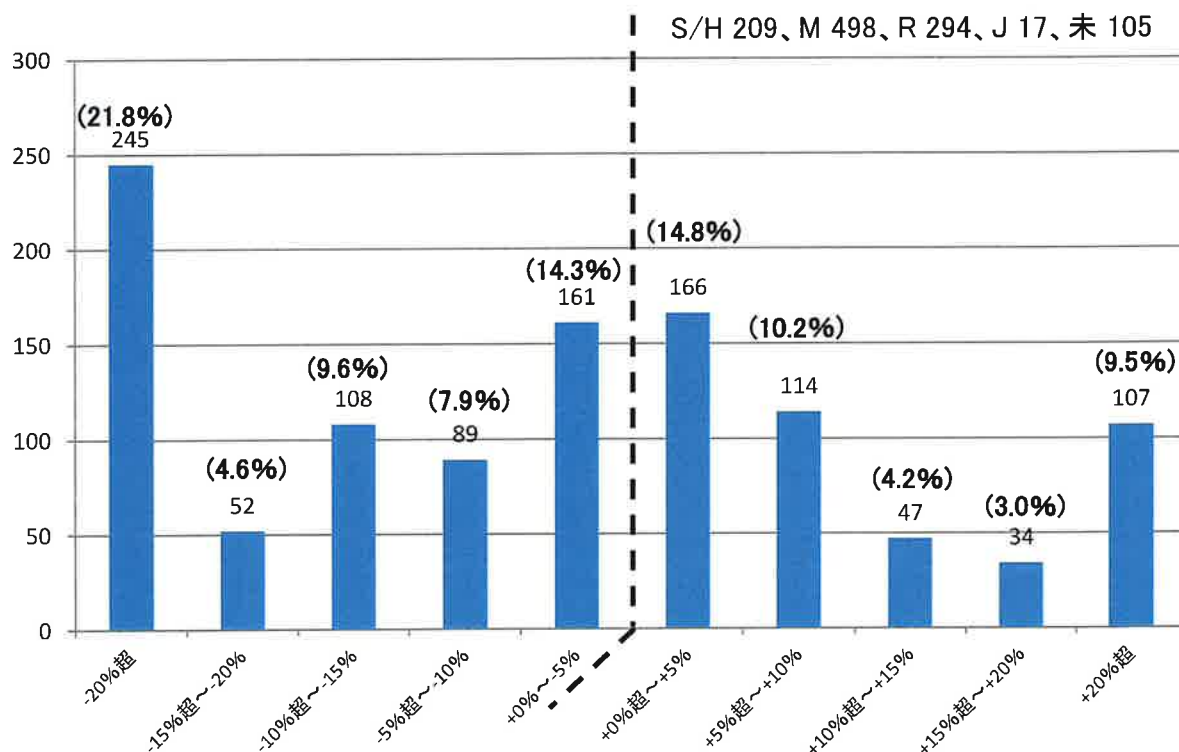
<調査結果のポイント>

営業利益についても、粗利益と同様の傾向にあると考えられる結果となった。
前年と比べ営業利益が「改善」と回答した企業の割合は、41.7%(前回40.9%)
「悪化」と回答した企業の割合は、58.3%(前回59.1%)となっている。
※前回「改善」は58.0%→40.9%に減少、「悪化」は42.0%→59.1%に増加

設問6-(2) 前年(2020年度)対比の営業利益

有効回答数:1,123社

(単位:社)



設問7 貴社の経営上、現在課題となっていることは何ですか。(複数回答可)

<調査結果のポイント>

※下記番号は前回回答数が多かった順

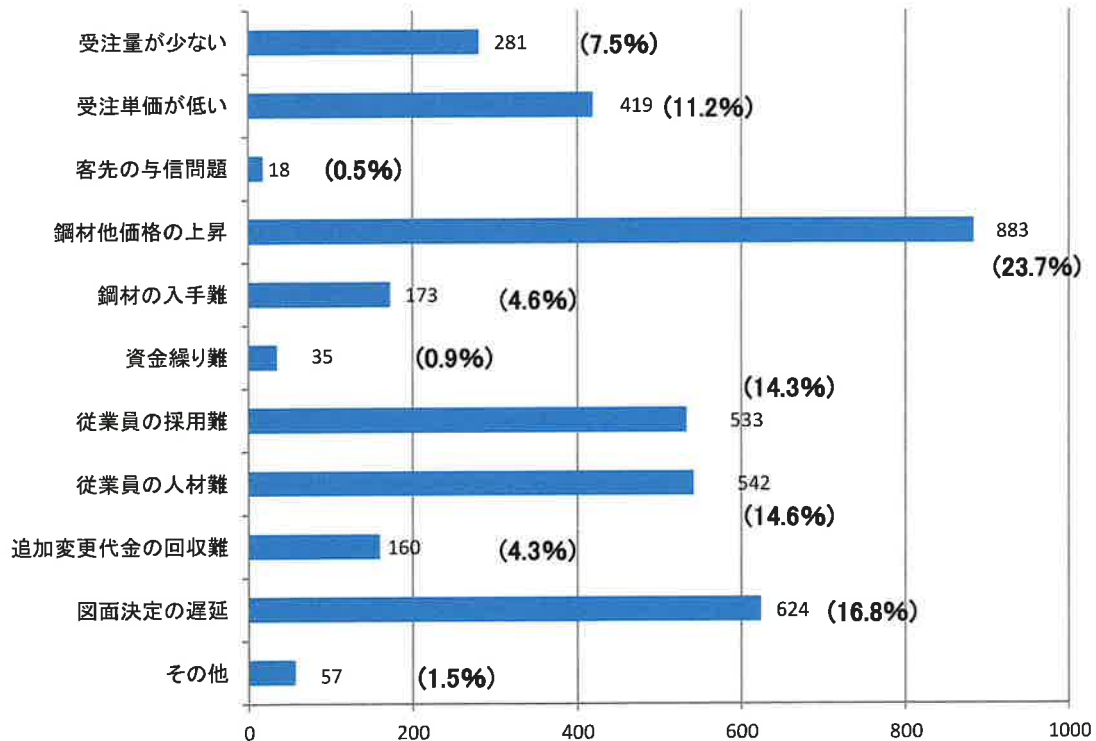
- ①鋼材他価格の上昇(前回745/21.2%)
- ②図面決定の遅延(前回523/14.9%)
- ③受注単価が低い(前回428/12.2%)
- ④従業員の人材難(前回428/12.2%)
- ⑤従業員の採用難(前回419/11.9%)
- ⑥受注量が少ない(前回386/11.0%)
- ⑦鋼材の入手難(前回372/10.6%)
- ⑧追加変更代金の回収難(前回111/3.2%)
- ⑨資金繰り難(前回30/0.9%)
- ⑩客先の与信問題(前回18/0.5%)
- ⑪その他(前回47/1.3%) となっている

回答項目(計11個)の比率について、前回から大きな変化は見受けられないが、「鋼材他価格の上昇」が前回より138件増に対して「鋼材の入手難」は前回から199件減という結果となっている。また「鋼材他価格の上昇」は前々回から増加傾向で、回答数自体も前々回から5倍強となり、社会情勢と連動した実態であるかと想定できる。(回答数:前々回/171)

設問7. 貴社の経営上、現在課題となっていること(複数回答可)

総回答数: 3,725件

(単位: 回答数)



【参考】

業績調査アンケート

設問 7. 経営上の課題「その他」について(具体的な回答)

1. 業績関連

- ・材料費高騰による、利益減(10 件)
- ・業務非効率による、利益減(3 件)
- ・現在の情勢から見る、将来への不安(2 件)
- ・人材確保のための賃金見直し
- ・家賃の高騰

2. 受注関連

- ・他社との競合による、利益減(4 件)
- ・工程の遅延と、工事そのもの中止(3 件)
- ・元請け、下請け、協力会社との連携、調整が難しい(3 件)
- ・納期遅れにおける外注利用により、山積行程の繁忙と粗利低下が発生
- ・図面決定に問題あり
- ・納期遅れにより、予定が立たない
- ・受注価格の高騰
- ・受注工事量のバラつき

3. 人材関連

- ・従業員の高齢化(4 件)
- ・社員教育、人材育成(4 件)
- ・従業員の定着化(2 件)
- ・後継者問題(2 件)
- ・現在の情勢から見る、将来への不安
- ・世代交代が進まない
- ・従業員に対する、評価制度の構築
- ・時間外労働の短縮
- ・工場の設備環境不足
- ・溶接工の不足
- ・若手の人材が少ない、希望者も少ない

4. 設備関連

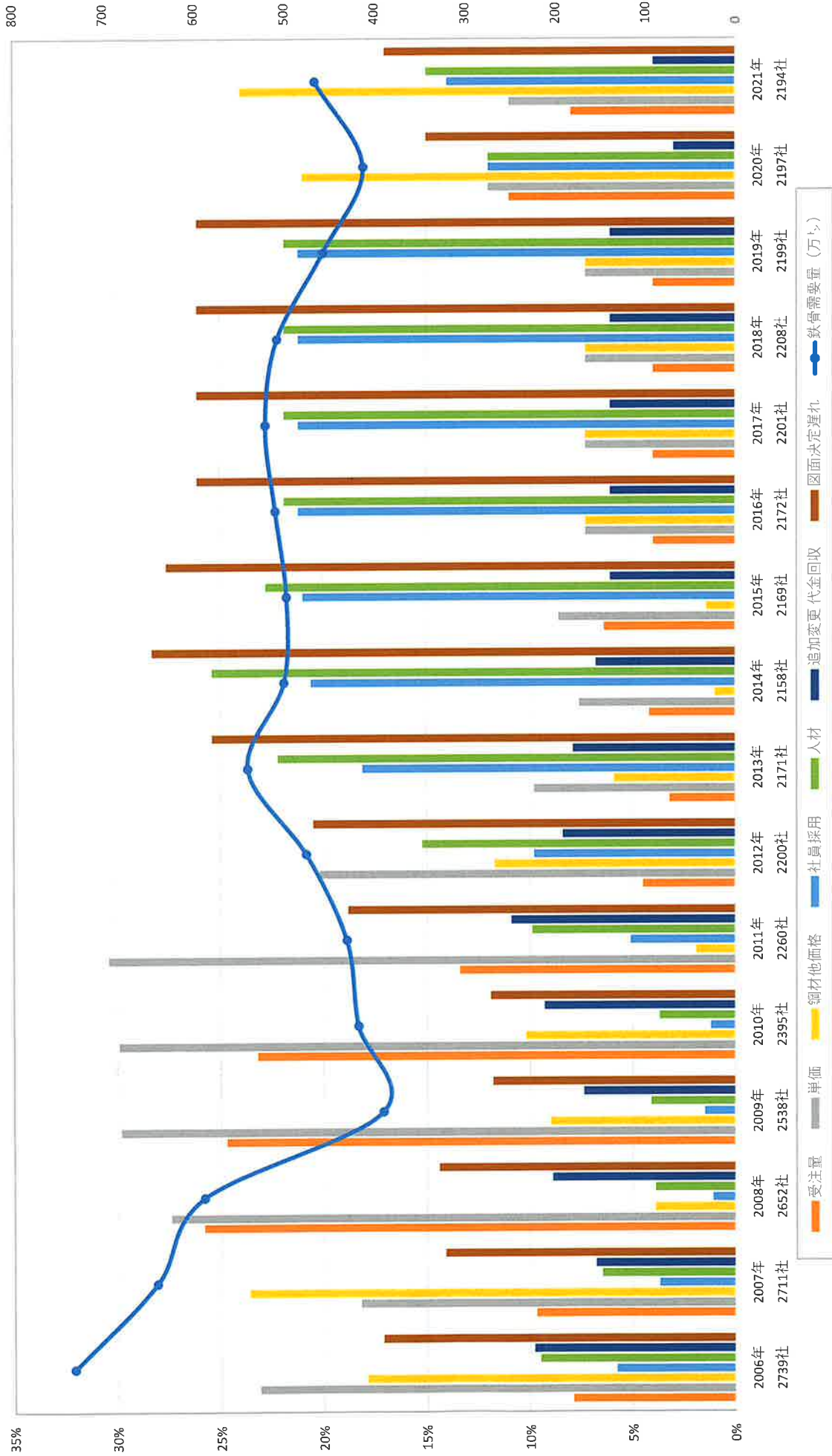
- ・工場の設備環境不足(4 件)
- ※作業スペース、ストックヤード等が小さい、少ない

5. その他

- ・工場の規模、設備等の基準の見直し(グレードの見直し)
- ・業界の立場を上げるための政府への要請

経営上の課題状況

(万円)



設問8 法定福利費の見積状況についてお答え下さい。(複数回答可)

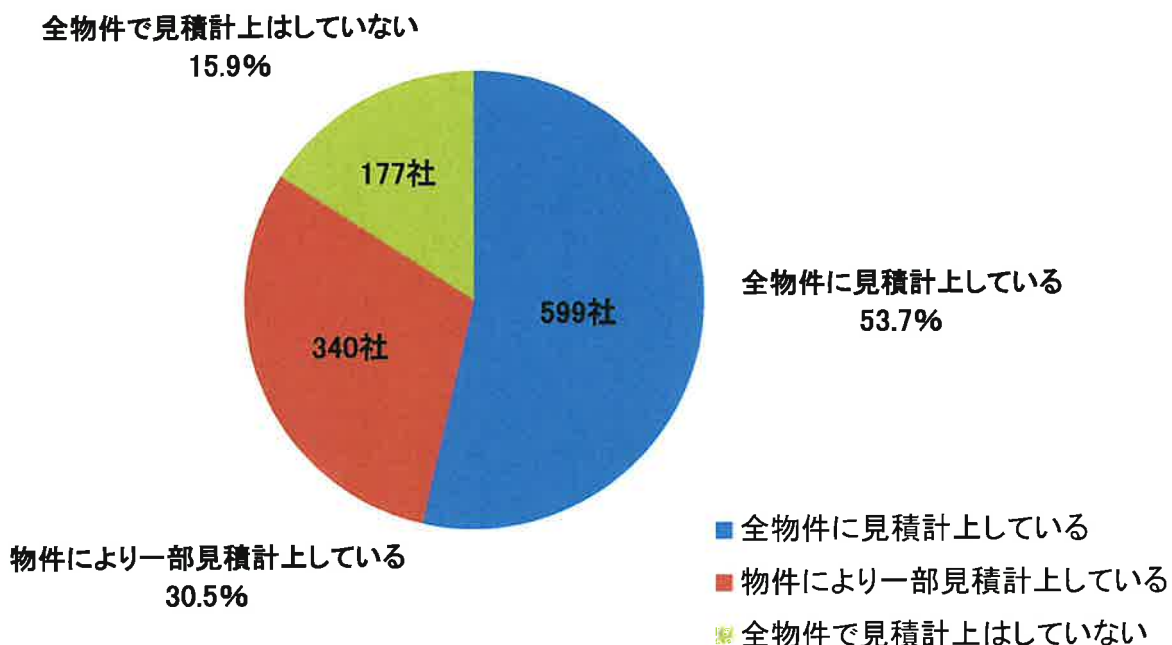
<調査結果のポイント>

「全物件に見積計上している」と回答した企業の割合が前回のみならず、近年企業数、回答比率共に上がってきている。
(前々回:548社/50.3%→前回:556社/52.9%)
※有効回答数(前々回/1,090社、前回/1,051社)

設問8 法定福利費の見積状況(複数回答)

有効回答数:1,116社

S/H 208、M 491、R 293、J 16、未108



設問9 法定福利費の計上についてお答え下さい。(設問8で①または②と回答された方)

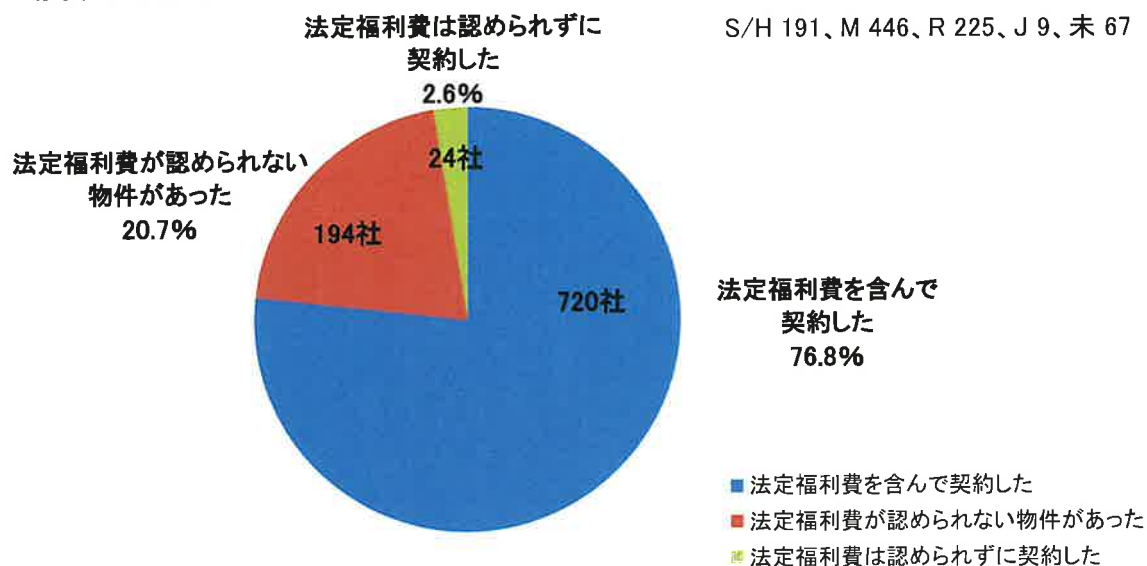
<調査結果のポイント>

「法定福利費を含んで契約した」と回答した企業は、有効回答数全体が前回より増加している分(前回870社→今回938社)契約したと回答した企業数も増えているが、「法定福利費と認められない物件があった」と回答した企業も増えているため割合は前回よりも若干減少している(前回79.0%→今回76.8%)

設問9 法定福利費の計上について

有効回答数：938社

S/H 191、M 446、R 225、J 9、未 67



	S/H		M		R		J		未		計	
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
(見積もり計上した物件は)法定福利費を含んで契約した。(法定福利費を全体金額に含んだ形での成約含む)	161	84.3%	349	78.3%	154	68.4%	5	55.6%	51	76.1%	720	76.8%
(見積もり計上した物件は)法定福利費が、認められない物件があった。	28	14.7%	83	18.6%	64	28.4%	3	33.3%	16	23.9%	194	20.7%
(見積もり計上した物件は)法定福利費は認められず(含まず)に契約した。	2	1.0%	14	3.1%	7	3.1%	1	11.1%	0	0.0%	24	2.6%
合計	191	100%	446	100%	225	100%	9	100%	67	100%	938	100%

設問10

設問9を回答した方に伺います。契約された工事について、二次以下の現場下請企業への法定福利費への対応についてお答え下さい。
設問10-(1) 法定福利費について、発注者との契約があった場合についてお尋ねします。

<調査結果のポイント>

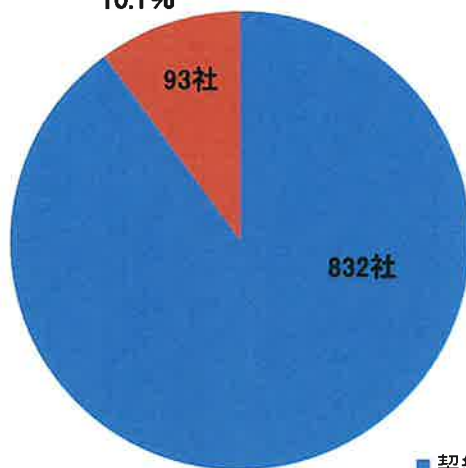
「契約があった場合は下請契約企業に払う」と回答している企業は、前回:88.1%→今回:89.9%
「契約があった場合でも下請契約企業に払っていない」と回答している企業は、前回:11.9%→今回:10.1%
「契約があった場合は下請契約企業に払う」と回答している企業の割合が
グレードが上がるのと比例して上がっているという傾向は近年変わっていない。

設問10-(1) 契約された工事の二次以下の現場下請企業への法定福利費対応について

S/H 190、M 442、R 215、J 9、未 69

有効回答数:925社

契約があった場合でも下請契約企業に払っていない
10.1%



契約があった場合は
下請契約企業に払う
89.9%

- 契約があった場合は下請契約企業に払う
- 契約があった場合でも下請契約企業に払っていない

	S/H		M		R		J		未		計	
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
法定福利費(項目)についての発注者との契約があった場合は当該成約工事分として下請契約企業に払う(払っている)。	183	96.3%	390	88.2%	190	88.4%	6	66.7%	63	91.3%	832	89.9%
法定福利費(項目)についての発注者との契約があった場合でも当該成約工事分として下請契約企業に払っていないことがある。	7	3.7%	52	11.8%	25	11.6%	3	33.3%	6	8.7%	93	10.1%
合計	190	100%	442	100%	215	100%	9	100%	69	100%	925	100%

設問10

設問9.を回答した方に伺います。契約された工事について、二次以下の現場下請企業への法定福利費への対応についてお答え下さい。
設問10-(2) 法定福利費について、発注者との契約がなかった場合についてお尋ねします。

<調査結果のポイント>

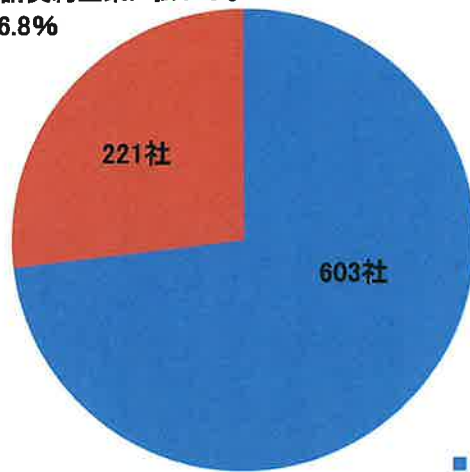
「契約がない場合でも下請契約企業に払う」と回答している企業は、前回：71.4%→今回：73.2%
「契約がない場合は下請契約企業に払っていない」と回答している企業は、前回：28.6%→今回：26.8%
「契約がない場合でも下請契約企業に払う」と回答している企業の割合が
グレードが上がるのと比例して上がっているのは、設問10-(1)と同様である

設問10-(2) 契約された工事の二次以下の現場下請企業への法定福利費対応について

有効回答数：824社

S/H 153、M 387、R 207、J 9、未 68

契約がない場合は下請契約企業に払っていない
26.8%



契約がない場合でも
下請契約企業に払う
73.2%

- 契約がない場合でも下請契約企業に払う
- 契約がない場合は下請契約企業に払っていない

	S/H		M		R		J		未		計	
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
(法定福利費についての発注者との契約がない場合でも)当該成約工事分として下請契約企業に払う(払っている)。	137	89.5%	290	74.9%	131	63.3%	5	55.6%	40	58.8%	603	73.2%
(法定福利費についての発注者との契約がない場合は)当該成約工事分として下請契約企業に払わない。	16	10.5%	97	25.1%	76	36.7%	4	44.4%	28	41.2%	221	26.8%
合計	153	100%	387	100%	207	100%	9	100%	68	100%	824	100%

設問11 従業員の月あたりの平均残業時間は、概ね何時間ですか。

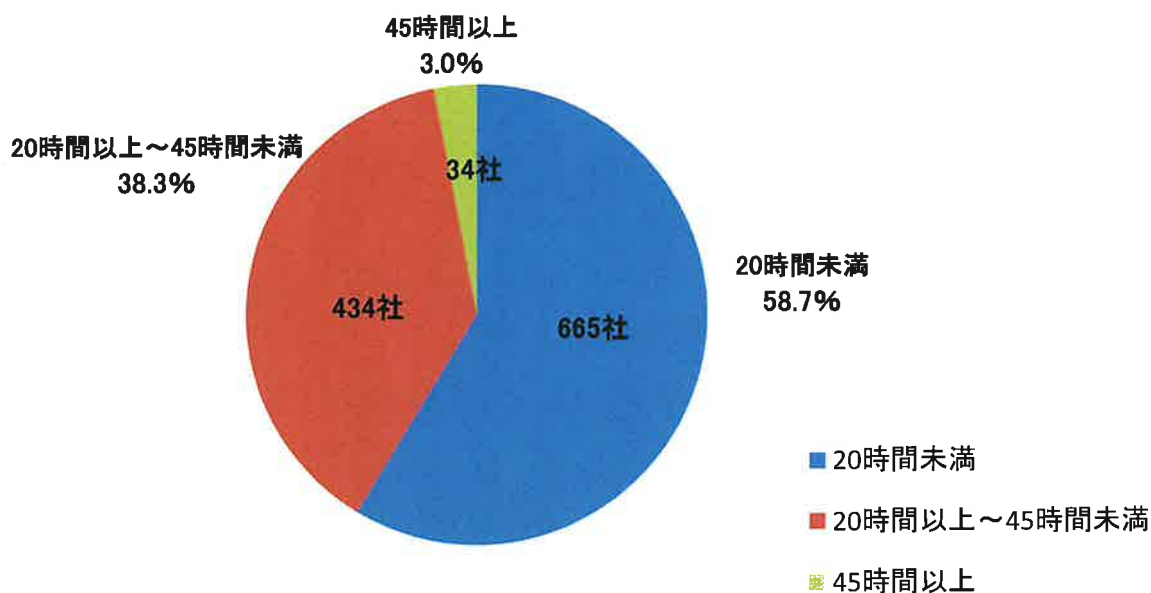
<調査結果のポイント>

平均残業時間20時間以上の会社の比率が、過去3カ年は減少傾向にあったが、
 ※平均残業時間20時間未満の会社の比率が増加の傾向
 今回は逆の現象が起きる結果となった。(前回:平均残業時間20時間未満/62.8%)
 コロナ禍による事業活動の影響も考えられる(自粛→停止→再開)

設問11 従業員の月あたりの平均残業時間

有効回答数: 1,133社

S/H 209、M 492、R 301、J 18、未113



	試算前提時間	S/H		M		R		J		未		計	
		社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
20時間未満	10	60	28.7%	291	59.1%	223	74.1%	11	61.1%	80	70.8%	665	58.7%
20時間以上～45時間未満	30	136	65.1%	188	38.2%	74	24.6%	7	38.9%	29	25.7%	434	38.3%
45時間以上	50	13	6.2%	13	2.6%	4	1.3%	0	0.0%	4	3.5%	34	3.0%
合計		209	100%	492	100%	301	100%	18	100%	113	100%	1133	100%

(参考)加重平均で算出したグレード毎の平均残業時間数	26	19	15	18	17	19
----------------------------	----	----	----	----	----	----

(単位:時間/月)

設問12 特に残業が多い従業員の月間の残業時間は次のどれですか。

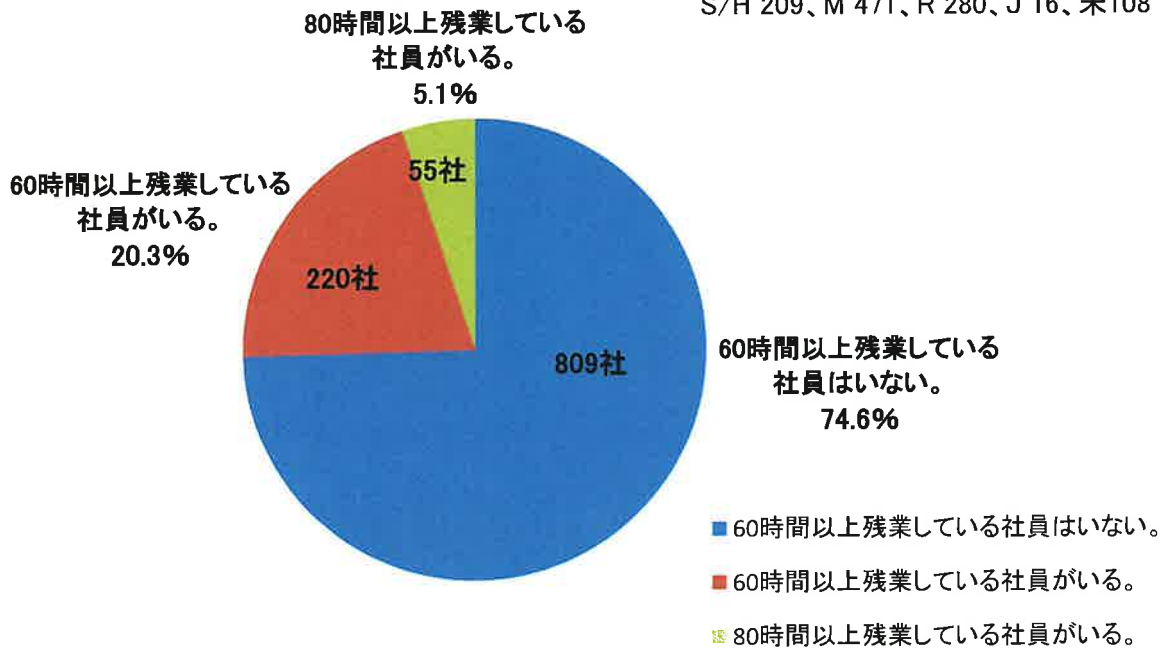
<調査結果のポイント>

「60時間以上の残業」をしている会社の比率は、設問11同様こちらも過去3カ年減少傾向にあったが、今回は逆の現象が起きる結果となった。(前回:60時間以上の残業/22.7%)
 ※前回よりも有効回答数が増えている分、回答全ての企業数は増えている。

設問12 特に残業が多い従業員の月間の残業時間

有効回答数:1,084

S/H 209、M 471、R 280、J 16、未108



	S/H		M		R		J		未		計	
	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
60時間以上残業している社員はいない	90	43.1%	369	78.3%	246	87.9%	13	81.3%	91	84.3%	809	74.6%
60時間以上残業している社員がいる	92	44.0%	87	18.5%	27	9.6%	3	18.8%	11	10.2%	220	20.3%
80時間以上残業している社員がいる	27	12.9%	15	3.2%	7	2.5%	0	0.0%	6	5.6%	55	5.1%
合計	209	100%	471	100%	280	100%	16	100%	108	100%	1084	100%

設問13 従業員の月間平均休日取得日数(実態)は、次のどれですか。

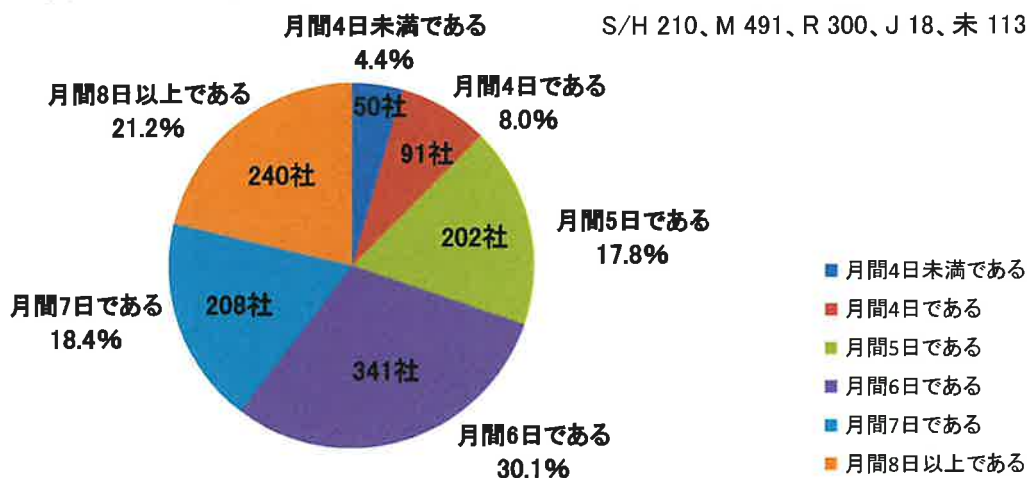
<調査結果のポイント>

前回調査と比べ、月間平均休日日数が「月間5日以下」の企業の比率は下がり(前回31.3%→今回30.2%)
 「月間6日以上」の企業の比率は増えている(前回68.8%→今回69.7%)
 直近4カ年で見ると、月間5日以下と月間6日以上の割合は凡そ4:6から3:7に変化している

設問13 従業員の平均休日取得日数(実数)

有効回答数: 1,132

S/H 210、M 491、R 300、J 18、未 113



	試算前提日数	S/H		M		R		J		未		計	
		社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%	社数	%
月間4日未満である	3	11	5.2%	20	4.1%	14	4.7%	1	5.6%	4	3.5%	50	4.4%
月間4日である	4	8	3.8%	42	8.6%	30	10.0%	0	0.0%	11	9.7%	91	8.0%
月間5日である	5	20	9.5%	93	18.9%	66	22.0%	6	33.3%	17	15.0%	202	17.8%
月間6日である	6	64	30.5%	150	30.5%	94	31.3%	3	16.7%	30	26.5%	341	30.1%
月間7日である	7	47	22.4%	89	18.1%	50	16.7%	3	16.7%	19	16.8%	208	18.4%
月間8日以上である	8	60	28.6%	97	19.8%	46	15.3%	5	27.8%	32	28.3%	240	21.2%
合計		210	100%	491	100%	300	100%	18	100%	113	100%	1132	100%

(参考)加重平均で算出したグレード毎の平均休日取得日数	6.5	6.1	5.9	6.2	6.3	6.1
-----------------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----